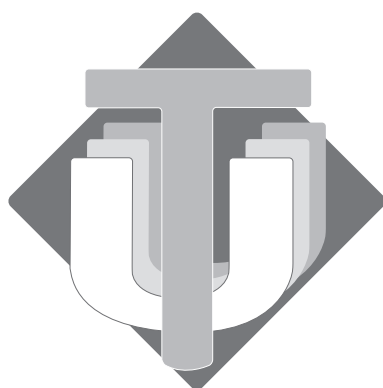


徳島大学

サマープログラム2014報告書



〈編集〉

徳島大学サマープログラム等実施委員会

Summer Program Organizing Committee
The University of Tokushima

巻頭言

徳島大学サマープログラム・サマースクールは夏休みを利用して海外協定校等から学生・教員を招聘し、徳島での短期滞在を通じて、本学の学生のグローバル化、キャンパスのグローバル化を目指すとともに、各部局において実施されている特色ある教育研究の取り組みや地方都市、徳島の魅力を紹介し、将来の留学先としての徳島大学をアピールすることを目的にしている。

徳島大学では、平成18年(2006)、大学院先端技術科学教育部の主催により最初のサマースクールが開催された。2年後の平成20年(2008)、文部科学省による「大学教育の国際化加速プログラム」の一つ、「国際共同・連携支援」事業に本学は応募し、採択された。この事業支援の下、大学院ヘルスバイオサイエンス研究部とソシオテクノサイエンス研究部の主催による2コースのサマープログラム・サマースクールが開催された。平成24年(2012)から国際センターおよび総合科学部サマースクールが実施されるようになり、今日、4コースのサマープログラム・サマースクールが開催されている。この間、平成22年(2010)には中国大連理工学日本語教員研修コースと中国大連理工大学ソフトウェア学院学生日本文化体験・IT技術研修コースを実施している。また、これらサマープログラム・サマースクール開催に当たって、その支援は当初より研究国際部国際課が中心となり、国際連携教育開発センター事務、医療教育開発センター事務の協力を得てきた。

平成24年度にサマープログラム等実施委員会が設置され、以後、本事業の実施には全学的に取り組んできた。平成26年度の徳島大学サマープログラム・サマースクールは本報告書にまとめられている通り、参加人数は過去最多となり、またプログラム内容もより充実したものとなった。今後、本事業をさらに魅力的なものにするとともに、その成果が現れ、海外からの留学希望者がさらに増加することを期待したい。また、本学の日本人学生の海外留学意欲が向上することも希望する。そして本事業が徳島大学のグローバル化教育の推進に少しでも役立てば関係者にとって望外の喜びとするところである。

最後に本年度のサマープログラム・サマースクールの成功はご尽力を賜った各部局の教員各位、事務職員の方々、参加された大学院生・学部学生の皆様のお力によるものであり、ここに深く感謝申し上げます。

平成27年3月
サマープログラム等実施委員会委員長
細井和雄

目次

1	サマープログラム2014	1
1.1	サマープログラムの目的	1
1.2	沿革	1
1.3	実施概要	3
1.4	単位の認定	3
2.1	総合科学部サマースクールプログラム	7
2.1.1	目的	7
2.1.2	日程	7
2.1.3	講義概要	10
2.1.4	エクサカーション	11
2.1.5	修了証書	14
2.1.6	アンケート集計結果	15
2.1.7	成果報告	16
2.2	ヘルスバイオサイエンス研究部統合大学院サマープログラム	19
2.2.1	目的	19
2.2.2	日程	19
2.2.3	講義概要	20
2.2.4	エクサカーション	21

2.2.5	修了証書	22
2.2.6	アンケート集計結果	23
2.2.7	成果報告	29
2.3	先端技術科学教育部サマースクール.....	33
2.3.1	目的	33
2.3.2	日程	33
2.3.3	講義概要	38
2.3.4	エクスカーション	39
2.3.5	修了証書	40
2.3.6	アンケート集計結果	41
2.3.7	成果報告	48
2.4	国際センターサマースクール「徳島であおう！」.....	51
2.4.1	目的	51
2.4.2	日程	51
2.4.3	講義概要	54
2.4.4	エクスカーション	55
2.4.5	修了証書	57
2.4.6	アンケート集計結果	58
2.4.7	成果報告	67
3	総括	70
4	今後の課題とまとめ	71
5	担当者一覧	75

1 サマープログラム2014

1. 1 サマープログラムの目的

1. 徳島大学を海外にアピールし、海外から見た本学の価値を高める
2. 学術交流協定校との関係を強化する
3. 将来の優秀な本学留学生確保につなげる
4. 徳島および日本を知ってもらい、徳島・日本を身近に感じてもらう
5. 徳島大学の教員、職員、学生の国際化を図る
6. 英語による授業を拡充する

1. 2 沿革

(1) 2008 (H20) 年度

6月 文部科学省「平成20年度大学教育の国際化加速プログラム（国際共同・連携支援；交流プログラム開発型）」に「英語力を基盤とする新国際化教育プログラムーサマープログラムと短期海外派遣による国際相互交流の推進ー」が採択された。

8月「サマープログラム2008」として2コースを実施した。

- ① ソシオテクノサイエンスコース（常三島キャンパス）
- ② ヘルスバイオサイエンスコース（蔵本キャンパス）

8月～H21年3月の間に「短期学生派遣プログラム」として3プログラムを実施した。

- ① 別研究プログラム
- ② リサーチプログラム
- ③ 短期語学研修プログラム

(2) 2009 (H21) 年度

8月「サマープログラム2009」として2コースを実施した。

- ① ソシオテクノサイエンスコース（常三島キャンパス）
- ② ヘルスバイオサイエンスコース（蔵本キャンパス）

8月～12月の間に「短期学生派遣プログラム」として3プログラムを実施した。

- ① 特別研究プログラム
- ② サマーリサーチプログラム
- ③ 短期語学研修プログラム

(3) 2010 (H22) 年度

8月「サマープログラム2010」として4コースを実施した。

- ① ソシオテクノサイエンスコース (常三島キャンパス)
- ② ヘルスバイオサイエンスコース (蔵本キャンパス)
- ③ 中国大連理工大学日本語教員研修コース (新蔵地区・常三島キャンパス)
- ④ 中国大連理工大学ソフトウェア学院学生日本文化体験・IT技術研修コース (常三島キャンパス)

(4) 2011 (H23) 年度

7月～8月の間に「サマープログラム2011」として2コースを実施した。

- ① ソシオテクノサイエンスコース (常三島キャンパス)
- ② ヘルスバイオサイエンスコース (蔵本キャンパス)

(5) 2012 (H24) 年度

6月～8月の間に4コースを実施した。

- ① 総合科学部サマースクール (常三島キャンパス)
- ② ヘルスバイオサイエンス研究部統合大学院サマープログラム (蔵本キャンパス)
- ③ 国際センターサマースクール「徳島であおう！」 (新蔵地区)
- ④ ソシオテクノサイエンス研究部サマースクール (常三島キャンパス)

(6) 2013 (H25) 年度

6月～8月の間に4コースを実施した。

- ① 総合科学部サマースクール (常三島キャンパス)
- ② ヘルスバイオサイエンス研究部統合大学院サマープログラム (蔵本キャンパス)
- ③ 国際センターサマースクール「徳島であおう！」 (新蔵地区)
- ④ ソシオテクノサイエンス研究部サマースクール (常三島キャンパス)

(7) 2014 (H26) 年度

7月～2月の間に4コースを実施した。

- ① 総合科学部サマースクール（常三島キャンパス）
- ② ヘルスバイオサイエンス研究部統合大学院サマープログラム（蔵本キャンパス）
- ③ 先端技術科学教育部サマースクール（常三島キャンパス）
- ④ 国際センターサマースクール「徳島であおう！」（新蔵地区）

1. 3 実施概要

開講コース	総合科学部サマースクールプログラム 平成 26 年 7 月 14 日～平成 27 年 2 月 8 日（第 1 期：実施せず、第 2 期：7 月 14 日～8 月 12 日、第 3 期：1 月 13 日～2 月 8 日） ヘルスバイオサイエンス研究部統合大学院サマープログラム 平成 26 年 8 月 1 日～8 月 9 日※台風のため 8 月 9 日の行事中止 先端技術科学教育部サマースクール 平成 26 年 7 月 21 日～8 月 15 日 国際センターサマースクール「徳島であおう！」 平成 26 年 8 月 1 日～8 月 10 日※台風のため 8 月 10 日の行事中止 各コースともに、海外の学生を対象とした英語又は日本語による短期集中講義等を実施して、本学の学生を共に参加させる。
開講場所	・徳島大学 蔵本キャンパス、常三島キャンパス、新蔵地区
対象学生	・学術交流協定校等からの留学生・教員 ・本学学生
主な内容	担当教員による講義、課外活動

1. 4 単位の認定

徳島大学で短期集中講義等を実施し、受講者に修了証書を発行

受入留学生：派遣元大学で将来単位認定が可能〈全コース〉

徳島大学生：

ヘルスバイオサイエンス研究部統合大学院サマープログラム

国際統合医療特論 2 単位

先端技術科学教育部サマースクール 国際先端技術科学特論Ⅰ 2 単位

2. 1 総合科学部サマースクールプログラム

**Summer School Programme
in Faculty of Integrated Arts and Sciences**

2. 1 総合科学部サマースクールプログラム

2.1.1 目的

グローバル化が進行する中で、異文化に対する理解力・コミュニケーション力を身につけることが必要になっている。さらに、新しい時代に必要な価値観を創造して、グローバル社会で活躍できる人材の育成が、大学改革に課せられた急務の課題である。総合科学部2014サマースクールでは留学生と日本人学生が受講する集中講義の授業を開設する。授業に参加した日本人学生と留学生が、授業だけでなく、課外活動も含めたピア学習を行い、お互いの言語や文化を学びあう。また、グループワークで、「グローバル社会」「持続可能な社会」などについての議論を行う。このような学生同士の対話を通じて、コミュニケーション力と異文化理解を深める。グローバルな視点を育成するために、できる限り多くの国の学生が参加するプログラムにする。このプログラムで外国の大学生と友好関係を築いた日本人学生は、異文化理解に対する興味を高め、交換留学などの制度による留学に興味をもつようになる。このようにして、日本人学生と諸外国の学生との友好関係を深め、プログラムで培われたグローバル社会への対応力を、自主的な活動や、留学に対する動機付けへ発展させて、グローバル社会に対応できる人材を育成することを目的とする。

2.1.2 日程

期間 第1期：2014年6月20日（金）から7月13日（日）まで

第2期：2014年7月14日（月）から8月12日（火）まで

第3期：2015年1月13日（火）から2月8日（日）まで

参加人数：第1期：0名

第2期：10名（モンゴルビジネス大学1名、モンゴル健康科学大学2名、青島理工大学2名、慶北大学3名、パサディナ市立大学2名）

第3期：6名（モンゴル健康科学大学6名）





開会式

7月14日（月）第2期参加登録

14:35-16:05 Peer learning with Students

7月15日（火）参加登録

16:20-17:50 Yoga experience (Lecture) *Ohashi*

7月16日（水）開会式とオリエンテーション（9:00 学部長室）

10:25-11:55 Cross-Cultural Communication (Lecture at 6-201) *Ohashi*

12:50-14:20 MUSIC (Extra Class Activity at 地域連携小ホール in 2nd Building)

14:35-16:05 敬語 Japanese (Lecture) *Murakami*

16:20-17:50 Bio Science (LABO exp) *Yamashiro & Watanabe* または日本語(Lecture) *Murakami*

7月17日（木）

10:25-11:50 Bio Science (LABO exp) *Yamashiro* または Volunteer & Community (Lecture at 6-201) *Ohashi*

12:50-14:20 Japanese 敬語 (Lecture) *Murakami*

14:35-16:05 Bio Science LABO (LABO exp) *Yamashiro* または Peer Learning with Students (Peer Learning)

16:20-17:50 Theatrical performance (Extra Class Activity at 6-201)

7月18日（金）

10:25-11:55 Bio Science (LABO exp) *Yamashiro* または Japanese 基礎ゼミ(Lecture) *Murakami*

12:50-14:10 Japanese (Lecture) *Murakami*

14:25-16:05 Global Communication with Citizens (Peer Learning at 6-201)

7月21日（月、海の日）剣山登山（エクスカーション）

7月23日（水）

10:25-11:55 Cross-Cultural Communication (Lecture at 6-201) *Ohashi*

14:25-19:30 市民シンポジウム「伝統文化と健康」けやきホール

19:30- 懇親会

7月24日（木）

10:25- 16:05 Bio Science (LABO exp) *Watanabe* または敬語 Japanese *Murakami*、Peer Learning

16:25-17:55 Theatrical performance (Extra Class Activity at 6-201)

7月25日(金)

- 10:25-11:55 Japanese 基礎ゼミ (Lecture) *Murakami*
12:50-14:20 Japanese (Lecture) *Murakami*
14:35-16:05 Global Communication with Citizens (Peer learning at 6-201)
16:20- 吉野川フェスティバルのボランティア (エキスカーション)

7月28日(月)

- 10:25-11:55 Global Society & Volunteer (Lecture) *Ohashi*
12:50-14:20 Japanese (Lecture) *Murakami*
14:35-16:05 Peer Learning with Students (Peer learning)

7月29日(火) 徳島城博物館見学 (エキスカーション)

7月30日(水)

- 10:25-11:55 Cross-Cultural Communication (Lecture at 6-201) *Ohashi*
12:50-14:20 MUSIC (Extra Class Activity at 地域連携小ホール in 2nd Building)
14:20-17:50* Bio Science (LABO exp at Room 3N05, 3rd Build, 3rd Floor) *Sato T*
14:35- 16:05* 敬語 Japanese (Lecture) *Murakami*
16:20-17:50* 日本語表現の基礎 Japanese (Lecture) *Murakami*

7月31日(木)

- 10:20-16:05 Bio Science (LABO exp) *Sato T* または Volunteer and Community (Lecture) *Ohashi*
敬語 Japanese *Murakami*、Peer Learning with Students (Peer learning)
16:20-17:50 Theatrical performance (Extra Class Activity at 6-201)

8月1日(金)

- 10:25-11:55 基礎ゼミ Japanese (Lecture) *Murakami*
12:50-14:20 Japanese (Lecture) *Murakami* または Bio Science (LABO exp) *Sato M*
14:35-16:05 Global Communication with Citizens (Peer learning)

8月4日(月) 学生インターナショナル・カンファレンス in けやきホール (1日目)

- 9:30-11:00 Student's Presentations 1 (Food and Agriculture)
11:10-11:50 Citizen's Presentation (Atomic Power Accident in FUKUSHIMA)
13:00-15:00 Group Discussion (Safety of Food and Agriculture)
15:20-16:00 Poster Presentation (Safety of Food And Agriculture)
16:20-17:50 人形浄瑠璃鑑賞 Puppet Theater (Event)
18:30- サマープログラム全体交流会 (阿波観光ホテル)

8月5日(火) 学生インターナショナル・カンファレンス in けやきホール (2日目)

- 9:30-11:50 Student's Presentation (Education and Local community)
13:00-15:00 Group Discussion (Role of Local community for Education)
15:20-16:00 Poster Presentation (Role of Local community for Education)

8月6日(水)

- 10:25-11:55 Final Presentation (Lecture in KEYAKI Hall)
12:50-14:20 MUSIC & theatrical performance(2号館地域連携小ホールにて課外活動)
14:35-18:00 preparation for Camping

8月7日(木)～8月8日(金) International Student Conference in 上勝(エクスカーション)
 8月11日(月)～12日(火) 京都見学(エクスカーション)
 8月12日(火) 第2期閉会 Closing
 1月13日(火) 第3期参加登録
 1月14日(水) 開会式(9:30 学部長室) 異文化交流(授業)、市民シンポジウム、民間療法
 1月15日(木) 医療ケアシステム(授業)、グローバル・コミュニケーション(授業)、日本語
 1月16日(金) 徳島市立高校訪問
 1月18日(日) あわ民俗芸能フォーラム(エクスカーション)
 1月19日(月) 生物学実験、グローバル・コミュニケーション(授業)、日本語
 1月20日(火) 生物学実験
 1月21日(水) 異文化交流(授業)、生物学実験
 1月22日(木) ボランティア(授業)、藍染、日本語
 1月23日(金) 生物学実験、グローバル・コミュニケーション(授業)
 1月24日(土)～25日(日) まほろばプロジェクト(エクスカーション)
 1月26日(月) 医療ケアシステム(授業)、グローバル・コミュニケーション(授業)、日本語
 1月27日(火) 生物学実験
 1月28日(水) 異文化交流(授業)、生物学実験
 1月29日(木) ボランティア(授業)、藍染、日本語
 1月30日(金) 生物学実験、民間医療(授業)
 1月31日(土) 徳島城博物館見学(エクスカーション)
 2月2日(月) 医療ケアシステム(授業)、プレゼンテーション、日本語
 2月3日(火) 生物学実験
 2月4日(水) 異文化交流(授業)、生物学実験
 2月5日(木) ボランティア(授業)、藍染、日本語
 2月6日(金) 徳島大学病院見学、最終プレゼンテーション
 2月7日(土)～8日(日) 大阪見学(エクスカーション)

2.1.3 講義概要

第1～2期には全学共通教育の共創型学習において「Global Communication・Volunteer experience in local community」を集中講義の授業として開講し、留学生と日本人学生がともに受講できるようにした。

【授業担当教員】 齊藤隆仁、大橋眞、佐藤高則

【授業の目的】

This lecture will be held in order to understand the famous local cultures in Tokushima and in other part of Japan by fundamental studies and practical studies. The most important purpose of this lecture is to skill up the ability of cross-cultural communications with foreign students. During the process of cultural studies, one should have his own opinions on the typical features of own cultures in terms of comparison with other cultures.

【授業の概要】

This lecture was undertaken to establish the fundamental understanding of the local culture in Tokushima that is useful for cross cultural communications. This lecture will be held in English including practical works. Each famous culture has its own history, so this lecture will focus on the origin of the current status of each culture.

2.1.4 エクスカーション

7月21日（月、海の日） 剣山登山

【概要】 留学生短期受入授業での自然・文化体験を通じた学習

【実施場所】 剣山（見ノ越～山頂～コリトリ）

【参加者】 留学生10名、日本人学生4名、教員2名、社会人1名

【その他】 交通機関は借上バスを使用

7月25日（金）吉野川フェスティバルのボランティア

【概要】 吉野川フェスティバルにおいて、ボランティア体験を行う

【実施場所】 吉野川河川敷

【参加者】 留学生10名、教員2名

7月29日（火）徳島城博物館見学

【概要】 徳島城博物館の見学を通し、徳島および日本の歴史を学習する。サマースクールの学生が共に体験し、各国の歴史と同じ点・違う点を語り合うことで、文化についての異文化理解を深める。

【実施場所】 徳島城博物館

【参加者】 留学生10名、教員1名

8月7日（木）～8日（金） International Student Conference in 上勝

【概要】 上勝町で自然・文化見学とインターンシップ短期体験を通じた学習を行う

【参加者】 留学生10名、徳島大学生9名、教職員2名

【その他】 交通機関は公用車（往路）、借り上げバス（復路）を STSサマープログラムと共同開催

7日 8:45 工学部電気電子棟前集合

9:40 丸木屋農園 Marukiya Farm

10:30 一休茶屋到着（各自昼食）、日比谷ゴミステーション・くるくるショップ見学

13:00 オリエンテーション、出し物・ステージ準備

15:00 神明神社でのステージ（工学部、総合科学部、上勝町）

19:00 懇親会

8日 9:00 体験学習（お茶摘み、木のおもちゃ作り、阿波踊り、押し葉づくり）

13:00 上勝町出発



神社の農村舞台での演劇発表



茶摘み



阿波踊り

8月11日（月）～12日（火） 京都見学（エクスカージョン）

【概要】 京都見学を通し、日本の文化・歴史を体験する。サマースクールの学生が共に体験し、各国の文化の同じ点・違う点を語り合うことで、文化・歴史についての異文化理解を深める。

【実施場所】 京都伏見稲荷、三十三間堂、金閣寺

【参加者】 留学生10名、日本人学生3名、教員2名

【その他】 交通機関は借り上げバスを利用

宿泊：小世界旅社



京都伏見稲荷大社



金閣寺

1月16日（金）徳島市立高校訪問



徳島市立高校との交流

1月18日（日）あわ民俗芸能フォーラム

【概要】あわ民俗芸能フォーラムの見学を通じ、日本文化の理解を深めるとともに、サマースクールでの意義を考える。

【実施場所】阿南市文化情報センター

【参加者】留学生6名、教員1名

1月24日（土）～25日（日） まほろばプロジェクト

【概要】まほろばプロジェクトの参加を通じ、日本文化の理解を深めるとともに、サマースクールでの意義を考える。

【実施場所】美馬市オデオン座

【参加者】留学生6名、教員1名

【その他】交通機関は鉄道（往路）、借り上げバス（復路）を利用

1月31日（土）徳島城博物館見学

【概要】徳島城博物館の見学を通じ、徳島および日本の歴史を学習する。サマースクールの学生が共に体験し、各国の歴史と同じ点・違う点を語り合うことで、文化についての異文化理解を深める。

【実施場所】徳島城博物館

【参加者】留学生6名、教員1名(1/31)

2月7日（土）～8日（日） 大阪見学

【概要】大阪見学を通じ、日本の文化・歴史を体験する。

【実施場所】大阪市内

【参加者】留学生6名、教員2名



FACULTY OF INTEGRATED ARTS AND SCIENCES
THE UNIVERSITY OF TOKUSHIMA

1-1 Minamijosanjima, Tokushima 770-8502 Japan

No. 481

4 September, 2014

CERTIFICATE OF COMPLETION

TO WHOM IT MAY CONCERN:

Name: [REDACTED]
Date of Birth: [REDACTED]
Program: Summer School Programme 2014
Period: 14th July 2014 ~ 12th August 2014

Study Course

Lecture (Name of Professor)

1. Global Communication

- Volunteer experience in local community -
(Prof. Makoto Ohashi, Associate Prof. Takahito Saito,
Associate Prof. Takanori Sato)

Hours

90h



Signature

Shogo Hirai
[Shogo Hirai]

Official Title

Dean of Faculty of Integrated
Arts and Sciences,
The University of Tokushima

2.1.6 アンケート集計結果

(1) 学習について

- ・日本語の能力が高くなった。
- ・日本の文化・習慣などを勉強できたので、今後の進路に役立てることができる。
- ・多様な外国からの留学生と話し、交流することで、自分の視野が広がった。
- ・異文化の理解の重要性について体験を通して学んだ。
- ・研究室での実験装置を用いた実習体験ができた。
- ・日本語のいくつかの単語、日本の歌、阿波踊りを学んだ。

(2) プログラムについての自由記述

- ・課外活動が充実していた。
- ・授業、ボランティア体験、上勝での見学を通して、日本人のゴミ分類と環境保護の意識にとっても感心した。
- ・このプログラムを経て、将来、1年間の日本での留学／大学院進学希望をもった。
- ・留学生と日本人学生が英語によりコミュニケーションする時間をもっと多く取ってほしい。
- ・社会人が参加する授業においては、日本語のみのコミュニケーションの時間があるため、それを理解することが困難であった。
- ・日本語を全く理解できない学生向けの日本語の授業があるとよい。

(3) 参加した日本人学生の自由記述

- 英語を使って話す機会を得られた。
- 他国の学生の英語力にとっても驚かされた。とても刺激を受けた。
- 海外の人と普段話し合う機会はないが、色々な意見を聞くことができた。英語をもっと話せるようになりたいと思うきっかけになった。
- 英語力の無さを痛感出来たから良かった。
- 外国人(異文化の人)の医学に対する倫理観を理解できた。
- 医療と関連した内容を英語で議論するという高校時代にはできない新しい経験ができて良かった。
- いつもの実験と異なることを行い、また、モンゴルの医学生とふれ合うことで、外国の学生の英語の力の高さと、医学に関する意識の高さ、積極的に話す姿勢などを知るととてもよい機会となった。
- 医学を志す者として、医学倫理についての考えを他人と共有し、またモンゴルの大学生ともディスカッションを通して理解を深めることができた。
- いろんな人と英語で医療に関する倫理的問題についての議論をするのは難しかったけれど、新鮮な感じがして楽しかった。
- 外国の留学生と話すことによって、意識が高まりました。同じ年なのに、本当に色々なことを知っていて、自分の好きなことをとことん研究しようとする姿勢を見て、自分の意識が高まりました。
- 様々な人と会話することで人間性を豊かにする。

2.1.7 成果報告

(1) 実施体制について

総合科学部サマースクールはサマースクール実行委員会により運営している。今年度は実施体制の充実を図るため委員を8名に拡大した。より多くの教員が関わることで、持続可能性についての討論の授業、日本語の授業、生物学実習、など多様な視点から内容を充実されることが可能となった。

(2) 協定・合意文章について

大学間協定のある大学（慶北大学、モンゴル健康科学大学）からの参加と、合意文書（MOU）を結んでいる大学（青島理工大学、モンゴルビジネス大学、パサディナ私立大学）からの参加があった。

(3) 授業・エクスカージョンについて

本年度は全学共通教育の共創型学習にサマースクールのために集中講義が開講され、日本人学生も受講でき、「グローバル社会」「持続可能な社会」などのテーマについての議論を行っている。こうした取り組みは、参加者が内容の多様性に触れるだけでなく、多様な人との交流の大切さに触れる契機となっている。また、生命科学を学習する留学生が多いことに対応して、今年度より本格的な生物学実習を行った。これは、長期留学もしくは大学院進学モチベーションとなっている。さらに今年度より開始した日本語の授業は、ある程度日本語を出身大学で学習してきた学生には、日本語の上達の点で評価が高かった。この取り組みも、長期留学に対するモチベーションに繋がっている。

エクスカージョンについては、授業におけるテーマについて体験を通して学ぶことができるよう、日本の自然・文化・歴史・暮らし・環境・地域課題などを総合的に学習することができるように配慮したプログラムを準備した。教室とは異なる空間において長時間を共有することから学生間のコミュニケーションがより図られるものとなった。

「2014 International Student Conference in Kamikatsu」はSTSサマープログラムとの合同企画であった。この企画の実施のために、上勝町の様々な資源（神社の農村舞台での交流、彩、茶摘み、ゴミステーション、森林管理、木材を活用したおもちゃづくり）がプログラムに組み入れることが可能となった。STSサマープログラムの参加学生との交流は学生アンケートからも評価されており、合同で企画することが有益であることが示された。

2. 2 ヘルスバイオサイエンス研究部

統合大学院サマープログラム

Summer Program Health Bioscience Course

2.2 ヘルスバイオサイエンス研究部統合大学院サマープログラム

2.2.1 目的

本プログラムは、健康生命科学系統合大学院を構成する5教育部（医科学、口腔科学、薬科学、栄養生命科学、保健科学）と、全国共同利用・共同研究拠点の疾患酵素学研究センター及び共同教育研究施設の疾患プロテオゲノム研究センターの教員が、専門領域横断的に教育を行うヘルスバイオサイエンス学際教育英語プログラムの夏季集中講義として、授業科目「国際統合医療特論」を開講し、本学が特色とする生命科学学際領域の最先端の研究手法と最新の研究成果を教授するものである。

さらに一般コースの学生にも大学院共通カリキュラム科目「生命科学の研究手法」として履修の機会を提供し、英語による単位の取得を可能とする。海外学術交流拠点校を中心とする留学生のみならず、本学大学院生にも外国人留学生と共に英語で相互学習し、切磋琢磨する学習環境を提供して、日本人学生のグローバルリテラシーの強化を図るものである。

本プログラムの実施により、学生の「英語によるコミュニケーション能力の向上」と海外交流校とのネットワーク形成を推進し、本学大学院における「教育のグローバル化」を目指す。

2.2.2 日程

2. 日程

期間：2014年7月31日（木）～2014年8月10日（日）

参加人数：51名

（内訳 Aisyisah Health Science college of Yogyakarta 3名

ハントゥーア大学 4名 ムハンマディア大学 1名

ガジャマダ大学 3名 モンゴル健康科学大学 9名

南通大学 1名 安東大学 2名

貴陽医学院基礎医学院 9名（さくらサイエンスプラン）

徳島大学 19名

2.2.3 講義概要

(1) 授業時間割

2014 Summer Program Health Bioscience Course スケジュール

講義場所: 医学基礎 B 棟 第二講義室

	8:50-10:20	10:30-12:00	12:00-13:30	13:30-15:00	15:10-16:40	
7月31日(木)	来日					
8月1日(金)		10:00-10:30 オリエンテーション 10:30-11:00 開講式		12:15-16:30 大塚製薬企業見学		
8月2日(土)	日本文化体験					
8月3日(日)						
8月4日(月)	講義① Protein Experiments I 福井 清 教授 (疾患酵素学研究センター)	講義② Protein Experiments II 頼田和子 助教 (疾患酵素学研究センター)	ランチ	講義③ Gene Analysis in Pharmaceutics I 福井裕行 特任教授 水口博之 准教授 (HBS・薬科学教育部)	講義④ Gene Analysis in Pharmaceutics II 伊藤孝司 教授 佐藤陽一 准教授 (HBS・薬科学教育部)	合同レセプション (常三島キャンパス)
8月5日(火)	講義⑤ Antibody Experiments in Biochemistry I 馬渡一論 講師 (HBS・栄養生命科学教育部)	講義⑥ Antibody Experiments in Biochemistry II 近藤茂忠 准教授 安倍知紀 助教 (HBS・栄養生命科学教育部)	ランチ	講義⑦ Gene Analysis Techniques I 高濱洋介 教授 峯岸克行 教授 片桐豊雅 教授 (疾患プログラム研究センター)	講義⑧ Gene Analysis Techniques II 親泊政一 教授 岡崎 拓 教授 (疾患プログラム研究センター)	
8月6日(水)	講義⑨ 【医工連携講義】 Biosensors: Theories and Applications 安澤幹人 准教授 (STS・先端技術科学教育部)	ラボツアー	ランチ	ラボツアー	ラボツアー	
8月7日(木)		講義⑩ Clinical Oncology & Molecular Imaging 近藤和也 教授 大塚秀樹 教授 (HBS・保健科学教育部)	ランチ	講義⑪ Morphological Methods for Medical Sciences I 坂下直実 教授 (HBS・医科学教育部)	講義⑫ Cell and Tissue Culture I 尾崎和美 教授 (HBS・口腔科学教育部)	
8月8日(金)	講義⑬ Morphological Methods for Medical Sciences II 堀口英久 准教授 (HBS・医科学教育部)	講義⑭ Cell and Tissue Culture II 岩田武男 助教 (HBS・口腔科学教育部)	ランチ	13:30-14:00 修了式		
8月9日(土)	徳島文化体験(鳴門阿波踊り体験)					
8月10日(日)	離日					

※英語特別コースでは「国際統合医療持論(Global Topics of Interdisciplinary Health Care)」、大学院全専攻系共通カリキュラム科目では「生命科学の研究手法」と認定

註：台風により、8月9日(土)の文化体験行事は中止。

(2) 教育実施体制

本プログラムの教育内容については、医療教育開発センターが中心となり、医・歯・薬・栄養・保健学研究領域の大学院教育課程を俯瞰し、ヘルスバイオサイエンス研究に携わる教員による分野横断的な新しい教育システムの開発を進めて毎年度その見直しと改善を図っている。また、ラボツアーに関しては、蔵本地区国際課と蔵本地区サマープログラム等実施委員会委員の調整により、5大学院教育部の全ての教員を対象とする研究室での実地研修を実施した。

(3) 留学生の宿泊

宿舎は、本プログラム参加学生が同時に滞在できる民間ホテルを大学予算により手配し、滞在中の生活支援と危機管理にあたった。

(4) 参加学生に対する生活支援

海外学術交流協定校等からの参加者については、JASSO 短期受入れ支援制度により旅費の補助金を支給し、滞在中は民間の宿泊施設を確保して利用できるようにした。また、学外での活動における交通費・見学科等は本学が負担した。

2.2.4 エクスカーション

4. エクスカーション

(1) 大塚製薬企業見学

実施日：2014年8月1日（金）

12:00～12:50 昼食（徳島市、大塚製薬社員食堂）

13:00～13:50 オロナミンC・ポカリスエット工場（徳島市、大塚食品(株)）

14:20～15:00 輸液ライブラリ（鳴門市、(株)大塚製薬工場）

15:30～16:00 松茂工場（松茂町、(株)大塚製薬工場）



大塚製薬見学

(2) 日本文化体験

実施日：2014年8月2日（土）

10:10～11:00 中野うどん学校（手打ちうどん体験）

11:00～13:00 旧金比羅大芝居「金丸座」・金比羅神宮

13:00～14:00 中野うどん学校

15:00～17:00 イオンモール高松店



手打ちうどん体験



金丸座見学



2.2.6 アンケート集計結果

6. アンケート集計結果

(1) 学生

This is a questionnaire to all students and supervisors who attend the "UT Summer Program 2014."
Please answer each item below.

1) Please give us information of yourself (Please circle) 30名のみ回答(1名未提出)

- | | |
|--|------------------------|
| 1. Master Course Graduate Student (9名) | 6. Assistant Professor |
| 2. Doctoral Course Graduate Student (7名) | 7. Associate Professor |
| 3. Laboratory Technician | 8. Professor (1名) |
| 4. Scientist/Teaching Staff (1名) | 9. Others (3名) |
| 5. Lecturer (9名) | (Please specify: 学部生) |

2) Please tell us your affiliation (with names of the department, institute, university and country)

- ・モンゴル健康科学大学
Public Health (1名) Biochemistry (2名) Immunology (1名) Senior Officer (1名)
immunology (1名) Medical Informatics (1名)
Preventive Dentistry (1名) Nutrition (1名)
- ・安東大学
Food and Nutrition (2名)
- ・ガジヤマダ大学
Oral and Maxillofacial (1名) Pediatric Dentistry (2名)
- ・ハントウア大学
Orthodontic (1名) Biomaterial (1名) Dental Public Health (1名) Pharmacology (1名)
- ・ムハンマディア大学
Orthodontic (1名)
- ・Aisyisah Health Science college of Yogyakarta
Emergency and Adult Nursing (1名)
- ・大学名未記入
Midwifery (1名) Anatomy (1名)
- ・貴陽医学院基礎医学院
Physical Chemistry (1名) Pathophysiology (1名) Pharmacology (1名) Biochemistry (1名)
Public Health (1名) Microbiology (1名) Pediatrics (1名) Pathological physiology (1名)

3) Please tell us your field of study (in detail) (cf. Biochemistry, Immunology, etc)

上記に同じ

4) Was the program, from the academic point of view, satisfactory for you? (Please circle)

Very much	-----	So-so	-----	Not at all
5 (21名)	4 (8名)	3	2	1

5) Please tell us what should be improved if you marked 1-3 in Item 4 above?

- ・看護の講義があれば、より面白いと思う。
- ・全ての講義をしてほしい。
- ・研究の講義を加えて欲しい。

6) Was accommodation satisfactory for you? Please write comments.

- ・国によって飛行機の時間が違うので、それぞれの開始日を近い日にしてほしい。
- ・参加者全員、同じホテルに宿泊できるようにしてほしい。
- ・とても快適でした。
- ・立地条件もよく、徳島大学蔵本キャンパスにも簡単に行くことが出来た。
- ・バスで大学に通えることが良かった。
- ・コンビニエンスストアが近くにあり快適に過ごせた。
- ・清潔感があり、とてもよかった。

7) Was this Japanese Culture Experience Program satisfactory for you? Please write your comments.

Nakano-Udon-School (Hands-on Experience of Udon Noodle)

- ・とても面白かった。
- ・素敵な時間が過ごせた。
- ・自分でうどんを作れたのが楽しかったし美味しかった。
- ・日本の文化を経験できた。
- ・うどんの作り方を勉強することができた。
- ・いろんな国の人と友達になれた。
- ・家でも作ってみたい。
- ・いつまでも記憶に残る体験ができた。

Kanamaruza (Konpira Kabuki Theater)

- ・とても素晴らしかった。
- ・これからもずっと続けて欲しい文化。
- ・日本の文化を更に知ることができた。
- ・日本の歴史をこのプログラムで沢山学んだ。
- ・この訪問はとても価値がある。
- ・金丸座は、とても素敵な場所。

- 8) Do you recommend your juniors to attend our “Summer Program 2014”, if we hold it next year?
(Please circle)

Very much	----	So-so	----	Not at all
5 (28名)	4 (1名)	3	2	1

※ (未回答 1 名)

- 9) After attending the program, do you think you will apply for our PhD program or recommend your friends/juniors to do so?

Very much	----	So-so	----	Not at all
5 (23名)	4 (4名)	3 (1名)	2	1

※ (未回答 2 名)

Thank you very much for your cooperation!!

(2) 教員

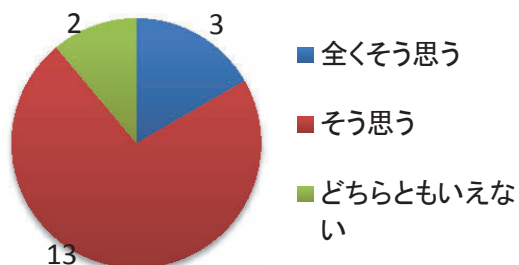
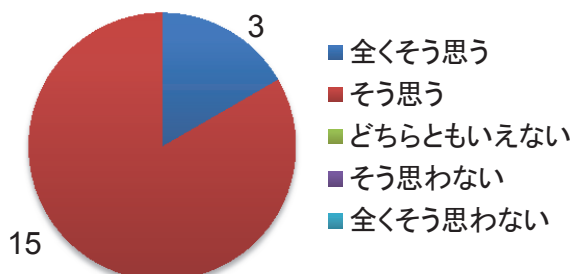
2014 Summer Program Health Bioscience Course 教員アンケート結果

回答数 18 名／21 名（回答率 86%）

1. プログラム全体についてお聞きます。

(1) 徳島大学の国際化に役立つと思いますか。

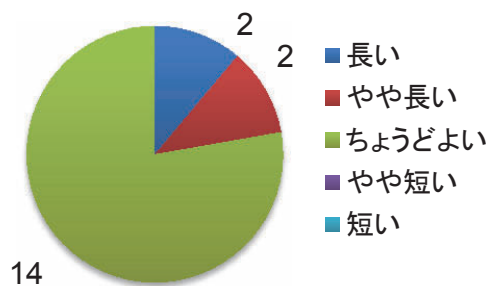
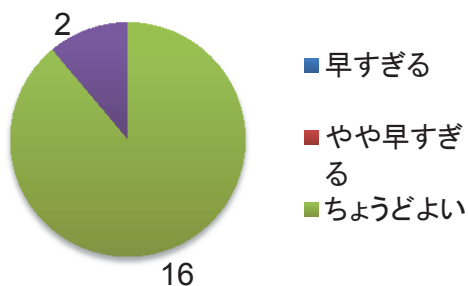
(2) 次年度も継続するべきと思いますか。



2. 講義についてお聞きます。

(1) 今年度の講義日程調整を開始した時期についてどう思いますか。

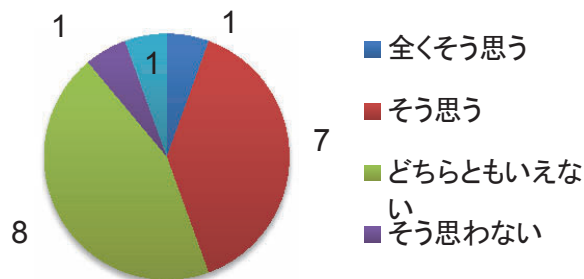
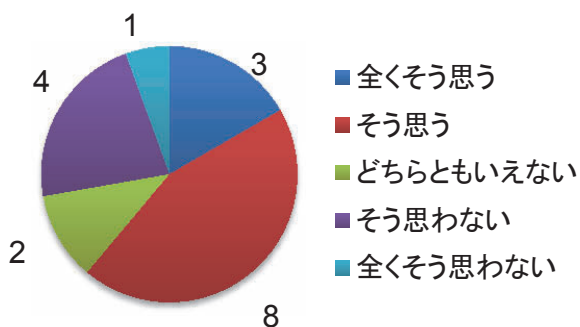
(2) 講義時間についてどう思いますか。



3. 今回の授業担当に関する教員の負担についてお聞きます。

(1) 今回の授業担当はかなり負担になりますか。

(2) 来年度も担当を要請された場合、スケジュール上可能なら担当しようと思いますか。



4. このプログラムについて、以下の3点に関するご意見をお聞かせください。

(1) 良かった点

- ・英語での授業を行ったことがなかったため、良い経験になりました。
- ・徳島大学を国際的に認知してもらえる
- ・英語の講義は初めての経験だったので勉強になりました。
- ・受講者に有益であれば、良かったと思います。
- ・毎年、多くの Science に興味のある学生が参加して、活気があること
- ・英語で講義する良い経験になった
- ・徳島大学での研究取り組みについて、アジア諸国の研究者に紹介できた点
- ・サポートがよかった。
- ・受講者数、講義室の設備・環境、e-Learning システム化、レポート
- ・学生たちが真剣に聞いていた。
- ・日本アジア青少年サイエンス交流事業（さくらサイエンスプラン）による招へい留学生を中国貴陽医学院から教員とともに受入れ、サマープログラムとの有機的連携が図れた点、合同交流会を全学レベルで実施できた点

(2) 改善すべき点

- ・抗体は専門外だったので、準備に時間を要したわりには、ためになる授業ができたか自分自身自信をもてない感じです。
- ・聴講者のニーズ、関心にあっているか否かを検討すべき
- ・他の講師の講義内容が分からず、内容が重複したのではないかと疑問に思っています。
- ・もっと質問が出るとよいと思います。
- ・講師が固定化していて毎年担当している者としては不公平感を感じる。少し休ませてほしい。
- ・①講師の選択が適当とは思いません。もっと最適な先生を選択する必要があると思います。（学科に分配するのではなく）②もう少しテーマ（タイトル）を細かく分けて、50分（or 45分）程度のレクチャーにすると良いかと思います。
- ・今後の発展にどうつなげるかが重要であり、この中から多くの学生を留学生として迎えることができるか、どのような field に興味があるのかを事前に調査して講師へ feedback することで、講師の選別をしてもよいのではないかと思います。
- ・受講生のレポート課題は短時間でまとめなければならないようですので、事前の資料配布が親切かもしれません。
- ・「生命科学の研究手法」（大学院講義）と合同になっているが、日本人の参加者が少ない。これは講義が英語で行うことも原因の一つになっていると思う。
- ・既存の大学院講義と統合してコマ数を減らして欲しい。
- ・内容が多くて、少し早く話しをしたので、来年は内容をもう少しスリムにして学生と talk しながらやった方がよい。
- ・宿舍の標準化（国際課担当）、台風等による帰国状況の変更への対応、ラボツアーの多様な要望に対する事前説明

(3) その他（具体的提案や感想など、ご自由にお書きください）

- ・専門に行っている研究者の方に、授業して頂くのが、一番よいかと思います。

- ・毎年のことながら、Life Science というより臨床医学的な講義しかできず申し訳ありません。
- ・前もってこのプログラムに参加される方の専門分野について情報があれば講義内容を組み立てる上で助かります。
- ・貴重な経験でしたが、準備にかなりの時間がとられました。
- ・英会話に長けていない教員（私のような）には、多大な負担となります。業績評価されるべき講義だと思います。
- ・研究室のスタッフ不足のため、次年度は別の教員に講義をお願いします。
- ・学生の中から、私たちの Lab へ留学していただければ幸いです。今までに 2 名エジプトから留学してきましたが、summer program とは関係ない。
- ・受講者の反応が非常にうすい
- ・全学 4 プログラムの海外交流大学への案内を同時に行なえるよう、全学的な調整が必要であると思います。JST によるさくらサイエンスプランを次年度も受入れることができるよう準備を進めるのが宜しいかと思います。

2.2.7 成果報告

本プログラムの実施にあたっては、ヘルスバイオサイエンス統合大学院を構成する医科学、口腔科学、薬科学、栄養生命科学、保健科学の5教育部と、疾患酵素学研究センター及び疾患プロテオゲノム研究センターの教員20名と先端技術科学教育部の教員1名が講義を担当して、専門領域横断的に教育を行うヘルスバイオサイエンス学際教育英語プログラム（英語による学位プログラム）の夏季集中講義として、授業科目「国際統合医療特論」を開講した。授業内容は、本学が特色とする生命科学学際領域の最先端の研究手法と最新の研究成果をサマープログラム参加留学生30名に教授した。

また、留学生に魅力的な水準の教育等を提供するとともに、一般コースの学生にも履修の機会を提供し、学内各教育部所属の19名の履修者が受講した。これらの本学大学院在籍者には単位の認定を行なって、教育・研究の国際競争力を図り、留学生と切磋琢磨する環境の中で国際的に活躍できる高度な人材育成の場を提供した。

さらに授業を担当した教員は、収録された英語による講義のeラーニング教材をレビューすることによる自己研鑽に務めて、教授能力の向上を図り、大学院教育におけるFD活動を行なった。これらの教育活動により、徳島大学教育理念である「学生の多様な個性を尊重して、人間性に富む人格の形成を促す教育を行い、優れた専門的能力と、自立して未来社会の諸問題に立ち向かう、進取の気風を身に付けた人材の育成」を推進した。

本学の国際化推進の観点からの成果としては、英語による体系的な教育プログラムの開発を積極的に進め、eラーニング教材の充実と高度化を図った。本取組みにより、大学自体の国際競争力強化のみならず、我が国の大学が教育・研究を通して国際社会に貢献していくという、国際的認知度の向上に貢献した。

とくに、今年度JSTにより新たに開始されたさくらサイエンスプランによる中国貴陽医学院の留学生受入れは、本学の特色とするヘルスバイオサイエンス最先端科学技術への関心を高め、もって我が国へのハイレベルの科学技術人材獲得に寄与すると考えられる。

また、学術協定校からの積極的で意欲の高い大学院生と、本学の学生が切磋琢磨する環境の中で、国際的に活躍できる高度な人材を育成し、さらに、「アーリーエクスポージャー」としてプログラムを行うことで、今後の本学への正規留学生の獲得に寄与する成果であった。

2. 3 先端技術科学教育部サマースクール

**International Affiliated Double-Degree Program
Summer School**

2. 3 先端技術科学教育部サマースクール

2.3.1 目的

夏休み期間中に先端技術科学教育部が開講しているサマースクールは、海外からも年平均 50 名程度の外国人学生と本学大学院先端技術科学教育部学生が参加し、ナノテクノロジーコースと電気情報コースの専門的な内容を学内・学外の講師により英語で提供してきた。一部藍染め体験などカルチャープログラムを取り入れていたが、本学先端技術科学教育部で力を入れている環境・エネルギーを更に意識できるプログラムを模索してきた。

徳島県上勝町は大学から車で約 1 時間の過疎化と高齢化が進む町ながら、全国でも有数の地域活性型農工商連携のモデルとなっている町である。特に、日本料理を美しく彩る季節の葉や花などを販売するベンチャービジネスである「葉っぱビジネス」を創業し、通常はゴミとして廃棄している物資を資産として活用する、究極の環境・エネルギーを意識した社会を実践している町である。

本サマースクールでは、これら上勝町で行われているベンチャービジネスに関するインターンシップを組み込み、徳島大学大学院先端技術科学教育部学生および外国人学生に、座学だけでは学べない環境・エネルギーを意識したサマースクールプログラムを提供することを目指した。

更に、平成 26 年度は香川大学危機管理研究センターでの講演会・見学会を組み込み、工学的手法による防災シミュレーション・環境モニタリングの講義と実演、および昔ながらの災害時のサバイバルテクニックなどの体験実習を通じて、科学技術によって支えられている持続可能な社会形成に不可欠な「危機管理」を意識・理解させることを目的とした。

2.3.2 日程

期間：2014 年 7 月 21 日（月）～8 月 15 日（金）

参加人数：85 人（ナノテクノロジーコース 32 人、電子・情報工学コース 53 人）

大学別内訳：西安交通大学 18 人、哈爾濱工業大学 3 人、韓国海洋大学校 1 人、国立台湾科技大学 7 人、南台科技大学 4 人、マレーシア国民大学 3 人、マレーシアマラッカ技術大学 4 人、ドクターババサヘブアンベドカルマラツワダ大学 2 人、ノースマハラシュトラ大学 5 人、プネ大学 1 人、King Mongkut's University of Technology Thonburi 3 人、トゥールーズ工科大学 1 人、徳島大学 33 人

July 21 – July 27: Common Activities

First Week				
July 21	17:00 18:00	Registration		
July 22	10:30 11:00	Opening Ceremony	Yasuhiko Kawamura (Dean of Engineering) Toshihiro Moriga	OpeningSpeech OpeningRemark
	11:00 12:00	Common Lecture 1	Pankaj Koinkar	Summer School Orientation: Program and
	13:30 14:20	Common Lecture 2	Satoshi Hashimoto	Basic Japanese for Communication
	14:30 15:50	Invited Lecture 1	Mahendra A. More	Field emission studies from Heterostructures
	16:00 16:50	Invited Lecture 2	Poki Chen	The young entrepreneur education in Taiwan
July 23	10:30 12:00	Common Lecture 3	Michihiro Nakamura	Multifunctionalized Organosilica Nanoparticles for
	13:30 15:30	Invited Lecture 3	Mahendra D. Shirsat	Electronic Nose: Synthesis, Characterization and
July 24	10:30 12:00	Common Lecture 4	Hajime Miura	Exercise is medicine for your healthy aging
	13:30 14:20	Invited Lecture 4	Stephen Karungaru	Biometric systems and Applications
	14:30 15:20	Lecture 5	Pankaj Koinkar	Carbon Nanomaterials and related Nanostructures
	15:30 16:20	Invited Lecture 6	Ri-ichi Murakami	World of Nanoscale and band structures
July 25	10:30 12:00	Common Lecture 5	Hitoshi Takubo	The English Language in a Globalized World
	13:30 14:20	Invited Lecture 7	Shih Hsuan Chiu	Development of an Area-Forming Rapid Prototyping
	14:30 15:50	Invited Lecture 8	Ri-ichi Murakami	Development of an Area-Forming Rapid Prototyping System and Photopolymer Nano-Composite
	16:00 16:50	Invited Lecture 9	Cheng-Kang Lee	Recombinant Enzymes for Glycated Hemoglobin
July 26	17:00 21:00	Yoshinogawa Festival	Firework	
July 27		Free time		

July 28-August 3: Nanotechnology and Materials Science Course

Second Week						
July 28	10:30 12:00	Special lecture 1	Toshio Takayanagi	Green Analytical Chemistry		
	13:30 14:20	Special lecture 2	Yoshihisa Suzuki	Crystallization of nanometer-sized molecules and particles		
	14:30 16:20	Special lecture 3	Mikito Yasuzawa	Preparation of Functional Surface and Application for Biosensors		
	July 29	10:30 12:00	Special lecture 5	Yoshihiro Deguchi	Industrial applications of laser diagnostics	
13:30 14:20		Special lecture 6	Tatsuya Okada	Fundamentals of transmission electron microscopy		
14:30 16:20		Special lecture 7	Antonio Nakagaito	Cellulose: from paper to nanocomposites		
July 30		10:30 12:00	Special lecture 8	Yasuhiro Mizutani	Fundamentals of optics	
	13:30 14:20	Lab Tour 1	Mikito Yasuzawa			
	14:30 15:20	Lab Tour 2	Tomoki Yabutani			
	15:30 16:20	Lab Tour 3	Hitoshi Takagi			
	July 31	12:30 13:30	Field Trip : Otsuka Pharmaceutical Company (Food and Medical Division)	Departure from The University of Tokushima Arrival at Otsuka Pharmaceutical Company		
14:00 15:00		Visit to Medical Division				
15:00 15:30		Visit to Food Division				
16:00 17:00		Departure from Otsuka Pharmaceutical Company Arrival at The University of Tokushima				
August 1		10:30 12:00		Special lecture 9	Yasushi Imada	Environmentally Friendly Organic Synthesis
		13:30 14:20		Special lecture 10	Kazuya Kusaka	Fundamentals of X-ray diffraction
	14:30 15:20	Special lecture 11	Kei-ichiro Murai	Structural Analysis using Synchrotron Radiation		
	15:30 16:20	Special lecture 12	J. Rafael Alcantara-Avila	Process Intensification for energy reduction in Chemical Plants		
	August 2	9:00 13:00	Mountain climbing: Bizan Mountain climbing			
August 3	Free time					

July 28-August 3: Electrical Engineering and Information Science Course

Second Week				
July 28	10:30 12:00	Special lecture 1	Kenji Matsuura	Supporting human learning of gross motor skill
	13:00 13:50	Special lecture 2	Minoru Yoshida	Text mining and machine learning
	14:00 14:50	Special lecture 3	Ito Momoyo	Human behavior analysis focusing on safety driving assistance systems
July 29	10:30 12:00	Special lecture 4	Kenji Teranishi	Discharge Plasma: Principle and Applications
	13:00 14:30	Special lecture 5	Yoshifumi Nishio	Chaos and its Applications
	14:40 16:10	Special lecture 6	Yoko Uwate	Nonlinear Circuits and Brain
July 30	10:30 12:00	Special lecture 7	Jin-Ping Ao	Introduction of Semiconductor Devices
	13:00 14:30	Special lecture 8	Shinsuke Konaka	CMOS IC Technology and its Basic Analog Circuit Design
	14:40 16:10	Special lecture 9	Masahide Hojo	Technical Challenges to Build a Smarter Grid
July 31	12:30 13:30	Field Trip 1 : Otsuka Pharmaceutical Company (Food and Medical Division)	Departure from The University of Tokushima	
	14:00 15:00		Arrival at Otsuka Pharmaceutical Company	
	15:00 15:30		Visit to Medical Division	
	15:30 16:00		Visit to Food Division	
	16:00 17:00		Departure from Otsuka Pharmaceutical Company	
			Arrival at The University of Tokushima	
August 1	10:30 12:00	Special lecture 10	Stephen Karungaru	Introduction to Image Features extraction methods
	13:00 13:50	Special lecture 11	Yuichi Nagata	Evolutionary computation in combinatorial optimization
	14:00 14:50	Special lecture 12	Masaki Oono	Music information retrieval
August 2	9:00 13:00	Mountain climbing	Bizan Mountain climbing	
August 3			Free time	

August 4 - August 10 : Common Activities

Third Week				
August 4	9:30 11:00	Student Conference	Student’s Presentations 1	Food and Agriculture
	11:10 11:50		Citizen’s Presentation	Atomic Power Accident in FUKUSHIMA
	13:00 15:00		Group Discussion	Safety of Food and Agriculture
	15:20 16:00		Poster presentation	Safety of Food and Agriculture
		16:30 18:15	Cultural show	
	18:30 20:30	Intercultural party		
August 5	9:30 10:40	Student Conference	Student’s Presentations 2	Education and Local community
	10:50 11:50		Student’s Presentations 3	Education and Local community
	13:00 15:00		Group Discussion	Role of Local community for Education
	15:20 16:00		Poster presentation	Role of Local community for Education
	August 6	9:00 10:30	Field trip 2: Kagawa University, Takamatsu city	Departure from The University of Tokushima Arrival at Tsuda no Matsubara (Kinrin Park)
12:15 12:45		Departure from Tsuda no Matsubara (Kinrin Park) Arrival at Kagawa University		
13:00 16:30		Lectures on disaster Management and The Earthquake Simulation Experience		
16:30 18:00		Departure from Kagawa University Arrival at The University of Tokushima		
August 7	8:00 9:00	Field Trip 3: Kamikatsu Town, Tokushima city	Departure from The University of Tokushima Arrival at Kamikatsu Town	
	9:00 12:30		Visits to Maruki farm, Recycle Shop, Lunch, Yama no Gakko	
	13:30 15:00		Orientation, Stage construction for theater , Theater group practice	
	15:00 16:00		Group performance by students	
	16:00 17:00		Group performance: Kome Kome Girls	
August 8	7:30 9:00	Orientation on Agricultural experience		
	9:00 16:30	Experience on Leave business, Leaf harvesting, wooden craft, Buss cutting		
	16:30 17:00	Closing ceremony Departure from Kamikatsu		
August 9	9:00 13:00	Visit to Yume Town		
August 10	Free time			

August 11- August 15: Common Activities

Fourth Week			
August 11	10:30 13:00	Laboratory Visits	Materials Sciences, Chemical Science
	14:00 16:00		Nanotechnology and Electrical Engineering
August 12	14:00 16:00	Japanese Dance Experience	Awa Dance Practice
	17:00 21:00		Awa dance Experience
August 13	16:00 18:00	Local sightseeing	Tokushima Central Park, Tokushima Castle museum
	18:00 21:00		Awa dance Experience
August 14	14:00 18:00	Boat tour	Hytanjima Boat Tour
	18:00 20:00		Awa dance Experience
August 15	9:00 13:00	Local sightseeing	Visit to Naruto Whirl pool
	14:00 14:30	Closing	Closing Ceremony

2.3.3 講義概要

実施期間 2014年7月21日（月）～8月15日（金）

場所 工学部工業会館2階他

講義内容 日程参照

第一週である7月21日から27日は、全体オリエンテーションの後、国際センター橋本先生による「コミュニケーションを行うための日本語」の講義、ヘルスバイオサイエンス研究部の中村先生による「医工連携」に関連した講義、ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部の三浦先生、田窪先生の「リベラルアーツ」に関する特別講義、また国立台湾科技大学のChen先生、村上先生、Chiu先生、Lee先生、インド・プネ大学のMore先生、インド・ドクターババサヘブマラツワダアンベドカル大学のShirsat先生にそれぞれの先生方のご専門の講義を共通講義として提供いただいた。

第二週である7月28日から8月3日は、ナノテクノロジーコースと電気情報コースのそれぞれの専門に分かれて、ソシオテクノサイエンス研究部の先生方に講義を提供いただき、研究室訪問をさせていただいた。

第三週である8月4日から10日は、日本人学生と外国人学生で、それぞれ出身国に分かれてそれぞれの国の特徴・文化・習慣について発表を行い、その共通性や違いについて討論を行うプログラムを行うとともに、香川大学危機管理研究センター・上勝町へのフィールドトリップを行った。

最終週である8月11日から15日は、希望者に対し研究室訪問と徳島文化体験を行った。

2.3.4 エクスカーション

上勝町文化体験・インターンシップ

実施日：2014年8月7日（木）～8日（金）



オリエンテーション



自国文化紹介



てるペンブロックコンテスト



自然農園視察



山の楽校押し花体験



Summer School 2014: Survey

prepared by CICEE, The University of Tokushima

The purpose of this questionnaire is to survey different aspects of the Summer School. It will be useful to improve our organizational skill and the quality of future Summer Schools supported by The University of Tokushima and CICEE.

1. What were your reasons for attending Summer School? (you can choose more than one)

- i. The financial and accommodation support[67%]
- ii. I want to attend this university in the future[43%]
- iii. Because of the location of the University[31%]
- iv. The choice of subjects and activities[61%]
- v. I have friend who applied here too[14%]
- vi. Other reason[22%]

2. How do you judge the quality in general?

- i. Overall Program
Excellent [76%] Good [24%] Average [0%] Poor [0%]
- ii. Quality of lectures
Excellent [45%] Good [45%] Average [6%] Poor [2%] N/A = [2%]

3. How do you judge the academic level of the lectures?

Very High [41%] Good [49%] Average [10%] Low [0%]

4. How do you evaluate the organization and planning?

- i. Accommodation
Excellent [47%] Good [35%] Average [16%] Poor [2%]
- ii. Social Events (field trip....limited students went for field trip)
Excellent [61%] Good [31%] Average [8%] Poor [0%]
- iii. Overall Organization and Planning
Excellent [61%] Good [37%] Average [2%] Poor [0%]

5. How do you classify the laboratory visits and/or exercises?

Excellent [41%] Good [51%] Average [8%] Poor [0%]

6. How much influence do you expect the knowledge & skills you learned at the summer school will have on your future?

A great deal [39%] A lot of [49%] Moderate [12%] A little [0%]

7. As a result of the summer school do you think you are more or less likely to get involved in research that is interdisciplinary?

More likely [37%] Likely [59%] Less likely [4%] Not likely [0%]

8. As a result of attending the summer school, to what extent were you able to achieve goals that are important to you?

More likely [47%] likely [47%] Less likely [4%] Not likely [0%] N/A = [2%]

9. Do you like to participate in future Summer Schools?

Absolutely Yes [86%] Maybe [14%] No [0%]

10. The parts of field trip that you liked most?

- i. Group performance
 - ii. visit to Otsuka Pharmaceutical Company
 - iii. Disaster management and Earthquake simulation in Kagawa University
-
- i. The high technology and organization of the Otsuka Pharmaceutical Company.
 - ii. This company not only cared about high performance but were really concerned about environmental issues.
 - iii. The organization of the field trips was very good.
-
- i. The visitation to Otsuka Pharmaceutical Company,
 - ii. The group activities at the Kamikatsu Town,
 - iii. The performance by villagers and students at Kamikatsu Town.
-
- i. Otsuka Pharmaceutical company offers the automation of production process in the advanced industries.
 - ii. During the time in the mountains, we watched the awe dancing. It was pretty good.
 - iii. The barbecue they provided, including the beer and the beverage.
-
- i. Punctuality of travelling
 - ii. Interaction with various people
 - iii. Coordination between staff
-
- i. The visit to the company shocked me a lot. The long production line only needs 3 people. The automation level is very high and the control is very precise.
 - ii. The field trip to Kamikatsu Town is the one I like most.
 - iii. I have enjoyed the beautiful countryside scenery there, and I have also learned a little about the local industry there.
-
- i. Visiting the Otsuka Pharmaceutical Factory
 - ii. The barbecue at Kamikatsu
 - iii. Lots of events in Kamikatsu like Nosonbutai, making leaf postcard and so on.
-
- i. The day we went to Otsuka Fact. It is my first time to visit a big factory.
 - ii. The day we went to Kamikatsu and Shinmei Jinja. Very good place and relaxing.
 - iii. The beach in Takamatsu is also good. The sea in Japan is as beautiful as in Taiwan.
-
- i. I like nature and I like Kamikatsu town.
 - ii. Field trip to Otsuka group. The production line is pretty impressive
 - iii. I just like hanging out with the summer school friends.
-
- i. The field trip let us see more about Japan very well, including the life in Japanese countryside.
 - ii. During the field trip, I can communicate and play with friends from different countries, learning from each other.
 - iii. I like the BBQ in the trip and I think the visit to Otsuka Pharmaceutical is very meaningful.
-
- i. Mountain trip. The natural environment of Japan is excellent.

- ii. Factory visiting. The automatic production lines are greatly broaden my horizon.
 - iii. Barbecue. Having barbecue with friends is very interesting.
- i. Barbecue
 - ii. Dancing and singing performance
 - iii. None
- i. The performances by students in Kamikatsu town is very impressive, we enjoyed it a lot in spite of
 - ii. the rainy weather;
 - iii. The accommodation in Kamikatsu town is very nice. I was impressed by the quit and natural living in the downtown of Japan;
 - iv. The present given by Otsuka pharmaceutical Company after the trip made us very content and happy.
- i. What impresses me most is the performance given by the students and the barbecue later. I like that friendly and relaxed atmosphere. In Kamikatsu, we enjoy ourselves in the Japanese style country life.
- i. The beautiful scenario around Otsuka Pharmaceutical.
 - ii. The delicious snakes we got after visiting Otsuka Pharmaceutical.
- i. Visit farm
 - ii. Visit company in Tokushima
- i. barbecue
 - ii. Otsuka pharmaceutical
 - iii. Kagawa University
- i. Tour to small village of Kamikatsu and the all activities there. I enjoyed the awa Dance and also the leaf harvesting in so much beautiful nature.
 - ii. Secondly I also like trip to Kagawa University and both lectures are good and the two lab visits or activities are also very good and I learn much from that.
 - iii. I also like the show in Kamikatsu town that everyone from different countries perform many thing as per their culture. So by that program I become to know different culture inn different countries. And also the show in keyaki hall of that doll was awesome, I like it most.

11. The parts of field trip that you disliked most?

- i. Typhoon
 - ii. The people were not able to speak good English and there were neither handout nor any written information, instead we were only hearing inaccurate translations of what the people was explaining.
 - iii. Lectures on disaster manager and earthquake simulation were very bad, very low technology for the simulation and nothing new about the disaster manager.
 - iii. They made us make a bottle rain gauge.
- i. I could not get used to the public bath at Kamikatsu Town.

- i. Visiting another university and doing some earthquake things, are boring and mediocre.
- ii. We did not have the chance to pick tea thanks to the raining weather.
- iii. Accommodation was awful.

i. Sorry. There is nothing to write here.

- i. The field trip to Kagawa University.
- ii. On that day, most of our time was spent on the bus, and I was really sleepy when I reached at Kagawa University and attended the lecture.

- i. The craft-making courses in Kagawa University
- ii. The fact that there was no prior notice that we could not have lunch the day to Kamikatsu
- iii. The “earthquake simulation” weren’t the kind of simulation that might bring a physical sensation.

Every place in these field trips is very good. Only thing I don’t like is to do yakiniku in outdoor, also in Taiwan. But Taiwanese like do yakiniku in outdoor.

i. I was a little disappointed that the disaster management center could not mimic earthquakes..

i. I think the field trip is very good. If we can enjoy some sports activities, like surfing or swimming, and a one or two days trip to other big cities in Japan, it will be better.

I like all of the field trips, so, none dislike.

- i. rain
- ii. none
- iii. none

- i. We got no time to visit Takamatsu, since we have took three hours on the way to be there.
- ii. The disagreeable weather in Kamikatsu town.
- iii. Blank

i. Actually I enjoy every activity in the field trip. I think it’s a pity we didn’t get the chance to do the leaf harvesting.

- i. I think all the field trip is interesting.
- ii. So the most dislike thing maybe the long time spend on bus for transporting.

All the field trip are very interesting I like it very much.

i. None

- i. I don’t dislike anything but industrial tours may be increased in number and some new technology can be shown which is implemented there.
- ii. In Otsuka Pharmaceutical company they give the presentation good but we cant understand that much more due to Japanese to English conversion and they shows the production plants with not much description.

iii. The Barbeque in Kamakatsu town is very nice but in second day the management was not so much good.

12. Free comments on other subjects and suggestions:

Given by the typhoon, all outdoor activities were cancelled. What a pity! If the field trips were experienced at the beginning, we can get more familiar with each other and have a better time.

I am excitingly thankful to Prof Koinkar, Prof. Moriga and Prof. Wu. They and all the people involved in the organization did a great job supporting us and taking care personally of each and everyone of us.

I would like to suggest to include the subject of Japanese culture for the lecture that consist of the traditional clothing, festivals, history as well as food of the Japanese people.

It is also suggested that all the summer school participants briefly presents about their own research project for the conference.

The 3 weeks' study is little long because we can finish the same coursework in 2 weeks or even shorter time. Because for Chinese students, our visa has one moth limitation. When the course is over, we only have 1 week to visit the rest of Japan. This made our schedule a little bit tight.

I think there was a complete package for the students. I hope I will be selected in next summer school also.

The begging time of the lecture can be brought forward. The 10:30 is too late, making the ending time late. The lecture need only half day, but we can do nothing in the morning except sleeping. And because most of the shops and places will be closed in 17:00, we can just see some natural scenery and have no time to go to some museums and shops.

Attending 2014 Summer School at Tokushima University is really a big thing to me. It is the first time that I came to another country. I will always remember this pleasant journey.

The three-week life in Tokushima was really a good time for me and my fellows who also participated in the summer school. The summer school really provide us a platform to communicate with students from worldwide. I must say that it will be my best experience ever. But the everyday expenditure in Japan was a little high so I am wondering if there is a chance to give a rise to the scholarship. I believe 120 thousand yen will be appropriate.

Rent of our room is expensive. I hope there is more support of our scholarship. Totally, this summer school is very good experience, and I can feel the professors, Yu, Asada, and Koinkar, took care well for us.

I wish in the future, organizers may take into consideration of the weather condition in Tokushima. As is happened to us, a typhoon hit Tokushima at the end the our stay, and we have to stay extra days.

And maybe the university can provide vegetarian food or muslin food. Because it's hard to see our vegetarian or muslin friends not be able to eat in the canteen.

Prof. Moriga, Prof. Koinkar, Mr. Yu and all the teachers and students working and speaking for the summer school:

Thank you for all you have done for the summer school! I will come back if I have the chance in the future!

The summer school was an interesting experience. I have learned a lot about Japanese culture and status quo. And also, some Japanese food impressed me. In addition, the journey of factory was also unforgettable.

Finally, I hope the summer school could become better and better, and more students from all over the world have opportunity to participate.

It would be nice that we are given more information about overcoming the obstacle of Japanese language.

No more suggestions. And sorry for the delay.

I would like to Thank all of the staff of this program for taking care of us during the summer school. It a very impressive trip in Japan, which helps me a lot to be more open-minded. In addition I have made a lot of good friends coming from several Asian country.

I would like to introduce my experience in Tokushima to all of my friends and the teachers that will meet.

Lastly, I welcome all of you to contact me if you are about to come to China or west Europe, I would like to treat you as my family number.

I'm glad to get this chance to join this summer school. Besides the academic lectures, I would like to get more lectures related to the Japanese culture. And if possible, I hope Tokushima University can supply more financial and accommodation support to the students, cause the living expense is much higher than our countries.

I want to have more time chatting with students from different countries. I think all the students can be separated by multicultural groups. The small group can have meal, play outside together to have further communications

It is an unforgettable experience in Tokushima university. I have enjoy time at there.

Thank all the warmth and friendliness teachers and students.

Everything about the summer school is great, especially the teachers are great.

I like this summer school very much all over, invited lectures, lectures by professor in tokushima university, lab visits, field trips and all arrangement is very good and we enjoyed that a lot. We also learn much more from that will help us in our future.

Most important the Japanese Peoples are of very good nature and helping, I like Japanese culture very much, I also like the Yashonigawa festival a lot...!

I hearty say thanks to university for arranging this summer school and also want to say thanks to JASSO for providing us Financial Support without which it's not possible for us to attend the summer school.

2.3.7 成果報告

サマースクールは平成26年7月21日から8月15日の3週間にわたって行われた。参加学生は本学日本人学生20名、DDコースなどの本学外国人留学生17名および海外大学等からの学生65名の計89名の参加があった。

総合科学部や国際センターからの講師による共通講義も含めて、ナノテクノロジーおよび材料科学コースと電気工学および情報科学コースの2つに分け、各専門分野別の最先端のトピックスを中心とした講義を行った。8月7,8日は、総合科学部が主催しているサマースクールと共同して場所を上勝町の山の楽校に移し、フィールドトリップとして地域に根ざした葉っぱビジネスを体験してもらい、持続可能な社会を構築するために工学は如何にあるべきかを、グループワークとして各出身国の紹介も兼ねながら意見を交換しあった。一般的に工学は最先端技術の社会への還元のみがクローズアップされがちであるが、日本の社会の中に活かされている工学を体験し、それを環境・エネルギー問題にどのように活用するかを3週間のサマースクールを通じて考えてもらうのに良い機会を提供できたと思われる。

今回、総合科学部・全学共通教育センターの協力を得て、サマースクールにフィールドトリップを取り入れ、環境・エネルギー問題に対し工学は何をできるのかを3週間のサマースクールを通じて考えてもらうのに良い機会を提供できた。海外の学生に環境工学に関する高度専門職業人として徳島大学に留学するモチベーションを向上させることには成功したと考えられる。サマースクールに参加者した学生の中から、既に1名、博士後期課程DDコース学生として応募があった。

その他附記すべき事項：

アンケートの結果、9割近くの外国人留学生からグループワークをはじめとしたフィールドトリップに感銘を受けた旨、回答があった。

2. 4 国際センターサマースクール

「徳島であおう！」

International Summer School

Get together in Tokushima!

2. 4 国際センターサマースクール「徳島であおう！」

2.4.1 目的

本サマースクールは、(1) 海外の大学から参加する学生が、将来本学で交換留学生や正規外国人留学生として学んでもらうこと、(2) 徳島大学での学習・研究、ならびに徳島の文化について理解してもらうこと、また(3) 日本人と他国からの参加学生がお互いに出会い・知り合うことで、今後の国際化に向けた自らへ振り返りをうながすことを目的として実施した。

2.4.2 日程

期 間：2014 年 8 月 1 日（土）～8 月 10 日（日）

※台風のため、8 月 9 日（土）に閉講式を行った。

参加人数：約 120 名 海外参加者：50 名

日本人学生・一般：のべ約 40 名

本学留学生：のべ約 30 名

【中国】 10 名 北京航空航天大学 3 名、大連理工大学 7 名

【韓国】 7 名 韓国海洋大学校 7 名

【インドネシア】 14 名 ガジャマダ大学 7 名、ハントゥアー大学 4 名
Health College of STIKES AISYIAH 3 名

【台湾】 12 名 国立台湾嘉義大学 4 名、逢甲大学 2 名、国立屏東商業技術学院 4 名、国立台湾科技大学 2 名

【マレーシア】 3 名 マレーシア国民大学 2 名、マラヤ大学 1 名

【アメリカ】 1 名 ウェズリアン大学 1 名

【スウェーデン】 3 名 ルンド大学 3 名

日程：

1 日目：8 月 1 日（金）		
15:30-	徳島駅集合 & ホテルチェックイン	
2 日目：8 月 2 日（土）		
交流拠点事業県南ツアー ※台風のため中止		日和佐
7:15	ホテルロビー集合	
8:00	日亜会館出発	
9:30-15:00	留学生交流拠点整備事業による県南ツアー	
16:00	日亜会館着	
3 日目：8 月 3 日（日）		
	Free Day	
4 日目：8 月 4 日（月）		
10:30-10:50	開講式	日亜会館 2F 講義室
10:50-11:00	記念撮影	
11:10-11:45	プログラム・オリエンテーション	
11:45-12:15	JASSO 奨学金配布 & サインの記入	
12:00-13:30	昼休み	
13:30-15:50	徳島・徳大紹介	けやき Hall
16:20-18:10	徳島文化体験① 人形浄瑠璃	
19:00-20:30	サマープログラム合同交流会	阿波観光ホテル
5 日目：8 月 5 日（火）		
9:45-10:00	オリエンテーション	日亜会館 2F 講義室
10:00-10:30	日本人学生サポーターとの交流	
11:00-11:40	日本人学生サポーターとキャンパスツアー	常三島キャンパス
11:40-12:50	日本人学生サポーターと学食体験	生協
12:50	研究室訪問	各研究室
16:30-17:50	共通教育「日本語 5」授業発表（大石）	日亜会館
6 日目：8 月 6 日（水）		
9:00-11:00	徳島ビジネス体験（大塚製薬企業見学）	大塚製薬（オロナミン C・ポカリスエット工場、能力

		開発研究所)
11:00-12:00	昼食	大塚製菓内食堂
12:30-13:00	徳島文化体験② 霊山寺参拝	霊山寺
13:30-16:00	徳島文化体験③ 大塚国際美術館見学	大塚国際美術館
7日目：8月7日（木）		
9:30-10:00	日本文化体験 オリエンテーション	日亜会館・しんくら会館
10:00-12:00	日本文化体験 茶道・邦楽体験	
12:00-14:00	昼食	
14:00-14:45	日本人学生とのピア学習 (地方行政理解：県庁・県議会)	徳島県庁
14:45-16:45	徳島文化体験④：地方行政、組織理解及び副知事・議長表敬訪問	
17:00-18:00	ひょうたん島クルーズ体験	両国橋
8日目：8月8日（金）		
10:00-10:30	徳島文化体験⑤ 眉山見学	眉山
11:00-12:30	徳島文化体験⑥ 藍染め体験	藍の館
12:40-14:30	ゆめタウンにて昼食&買い物	ゆめタウン
15:10-16:30	徳島文化体験⑦ 渦の道体験	渦の道
9日目：8月9日（土）		
	Free Day	
10日目：8月10日（日）		
9:30-13:30	Jasso Feedback Sheet 記入	日亜会館 2F 講義室 日亜会館 2F 講義室
14:00-15:30	振り返り&まとめ	
15:40-16:00	修了式	
16:00-17:30	フェアウェルパーティ	
18:00-20:00	徳島文化体験⑧ 鳴門阿波踊り鑑賞	鳴門

※台風の影響により、8月2日（土）の留学生交流拠点整備事業による県南ツアーは中止した。
また、8月10日（日）の日程を急遽8月9日（土）に前倒した。
そのため、8月9日（土）に振り返りとまとめ、修了式、フェアウェルパーティのみ行った。

2.4.3 講義概要

実施期間 2014年8月4日（月）～2014年8月8日（金）

場所 日亜会館 2F 国際センター講義室他（日程参照）

講師一覧

国際センター	教授	金成海
国際センター	教授	大石寧子
国際センター	教授	Gehrtz 三隅友子
国際センター	准教授	坂田浩
国際センター	准教授	橋本智



集合写真



人形浄瑠璃体験



研究室訪問



ひょうたん島クルーズ

2.4.4 エクスカーション

日時：2014年8月6日（水）

○大塚製薬企業見学 9:00-11:00



○霊山寺参拝 12:30-13:00



○大塚国際美術館見学 13:30-16:00



日時：2014年8月7日（木）

○県庁訪問 14:00-16:45



日時：2014年8月8日（金）

○眉山見学 10:00-10:30



急斜面を登ります！

絶景でパシャリ

○藍染め体験 11:00-12:30



バンダナとして♪



作製中



オリジナルデザイン



PROGRAM QUESTIONNAIRE

For International Summer School at Uni. of Tokushima, 2014

Please answer ALL items in this program questionnaire.

47 名回答 ※3 名未回答（台風により早期帰国をしたため）

1) Please write your affiliation (with names of the department, institute, university and country)

- 【韓国】韓国海洋大学 7 名（言語学部 2 名、経済学部 5 名）
- 【インドネシア】ガジャマダ大学 7 名（歯学部 7 名）
- 【インドネシア】ハントゥーア大学 4 名（歯学部 4 名）
- 【インドネシア】Health College “STIKES AISYIAH” 大学 3 名（看護学科 3 名）
- 【中国】大連理工大学 7 名（工学部 7 名）
- 【中国】北京航空航天大学 3 名（工学部 3 名）
- 【マレーシア】マレーシア国民大学 2 名（経済学部 1 名、工学部 1 名）
- 【マレーシア】マラヤ大学 1 名（法学部 1 名）
- 【台湾】台湾嘉義大学 4 名（外国語学部 3 名、人文科学部 1 名）
- 【台湾】逢甲大学 2 名（経済学部 2 名）
- 【台湾】国立屏東商業技術学院 4 名（日本語学科 2 名、商業科 1 名、人文科学部 1 名）
- 【台湾】台湾科技大学 2 名（外国語学部 1 名、工学部 1 名）
- 【アメリカ】ウェズリアン大学 1 名（専門なし）
- 【スウェーデン】ルンド大学 3 名（日本語学科 3 名）

2) Did this program have a positive impact for your study? (Please circle)

Very much	-----	Average	-----	Not at all
5 (34 名)	4 (11 名)	3 (2 名)	2	1

3) What did you learn through the following activities (What did you think about the following activities)?

- Lecture on Study Abroad in Japan/UT (Day 3)

- ・ 日本の講義の概要を知れた。
- ・ 講義をしてくれた先生は、とてもフレンドリーで優しいけど、時間にとっても厳密だと思った。
- ・ 徳島大学の学部の説明の情報が豊富でよかった。
- ・ 奨学金制度がたくさんあることが分かったので、将来日本で自分の専門の勉強をしたいと思った。
- ・ 徳島大学はとてもきれいに整備されていた。
- ・ 日本人学生から、日本の文化や慣習などの話ができてよかった。

- Tokushima Local Culture Experience 1: Awa Ningyo Jyoruri (Puppet Play) (Day 3)

- ・ 日本語は分からなかったけど、主人公の感情を強く感じる事ができた。
- ・ 歌はとてもエキゾチックで洗練されたパフォーマンスを見ることができた。
- ・ 日本や他のアジア地域では同じように昔からの伝統的な劇を受け継いでいることが分かった。
- ・ とても楽しかったけど、通訳があるとより良かった。
- ・ 感動的で、地域文化はプライスレスだと思う。

- Networking Event: International Exchange Party at Awa Kanko Hotel (Day 3)

- ・ 特に阿波踊りがエネルギッシュでとても楽しかった。
- ・ 阿波踊りは全員参加型だったので、ダンスを通してたくさん友達を作ることができた。
- ・ 他のサマープログラム参加者と知り合い、仲良くなることができた。
- ・ 食べ物はとても美味しかった。寿司は最高だった。
- ・ 少し食べ物の量が少なかった。ビュッフェ形式にしたらいい。

- Learn the University 1: Meet Japanese Students, Campus Tour and Cafeteria Experience with them (Day 4)

- ・ 日本人学生はとても親切だった。また、日本人学生はこんなに美味しい学食を食べることができるなんてラッキーだと思う。
- ・ 学生とこの日に仲良くなり、次の日に鳴門の花火を一緒に見に行ったことも凄くいい思い出になった。
- ・ 大学の施設は洗練されている。
- ・ 図書館で勉強している学生がたくさんいてびっくりした。自分の国ではあまり見ない光景だった。

- Learn the University 2: Laboratory Tour (Day 4)

- ・ アニメ文化、妖怪文化をクラスのプレゼンテーションを見て学ぶことができた。アニメに興味があるので、とても楽しかった。
 - ・ このラボツアーでさらに徳島大学に留学をしたくなった。
 - ・ 研究室の先生はとても丁寧に説明してくれた。
 - ・ 研究室はとてもハイテクで、学生自身が制作に取り組んでいるものもたくさんあった。
 - ・ 是非徳島大学の大学院で専門の勉強を続けたい。
- Observation of the Presentations at the Advanced Japanese Class (Day 4)
- ・ 正直日本語が全く分からなくて、すごく戸惑った。留学生の日本語が早すぎて聞き取れなかった。けれど、将来日本語が話せるようになって、理解できるようになりたいと強く思った。
 - ・ プログラム期間中にもっと話せるようになりたいと思った。
 - ・ 学生がお互いを尊重し合い、熱心に聞いている姿がとてもいいなと思った。
 - ・ 日本語はとても難しいけれど、おもしろい。
- Tokushima Business Culture at Otsuka Factory and Human Resources Center, Eat at the Employee Cafeteria (Day 5)
- ・ 食堂はとても清潔で、食事とても美味しかった。
 - ・ 大塚で本当に働きたくなった。
 - ・ 大塚のスローガン「think out of the box. Try something new」がとても好きです。
 - ・ 大塚製薬の人を大事に思い、健康な物を作り出すという精神が好きだ。
 - ・ ポカリスエットやたくさんの大塚の商品の製造過程を見ることができて、すごく楽しかった。
 - ・ 能力開発研究所のトマトの木に感銘を受けた。このトマトの木の由来を聞いて、概念を覆させられた。
- Tokushima Art Culture at Otsuka Museum of Arts (Day 5)
- ・ また家族をここに連れてきてあげたい。
 - ・ 今まで見た美術館の中で一番最高でした。
 - ・ とても大きい作品に圧倒された。また、折り紙の作り方を学ぶこともできた。
 - ・ 作品を全部楽しむには時間は十分ではなかった。けれど来られてとてもよかった。
- Japanese Culture Experience 1: Tea Ceremony with Japanese Students and Local People (Day 6)
- ・ 韓国でもお茶文化はあるが、日本の方がより静寂で落ち着いた中行われるんだなと思った。
 - ・ 先生はとても優しく、お茶文化についてたくさんのことを教えてくれた。

- ・ 正座はあまりしてきた経験がないので辛かった。空間がすごく美しかった。
- ・ この素晴らしい伝統はずっと引き継がれていくべきだ。
- ・ 日本の人から直接お茶の作り方を教えてもらって、とてもいい体験になった。

- Japanese Culture Experience 2: Tea Ceremony: Japanese Musical Instruments (Day 6)

- ・ 音楽は国を超えて交流ができる言語のようなものだと感じた。
- ・ 自分の国（インドネシア）のジャバ音楽を思い出した。
- ・ 尺八の音色がとても心を落ち着かせてくれた。
- ・ 「さくらさくら」は中国でもとても有名です。他の音楽もとても心地よかった。
- ・ 少し音色が寂しげである感じがした。
- ・ リラックスすることができた。

- Peer Learning Activities: Visit Prefectural Government Office and Assembly (Day 6)

- ・ 県庁はどこも同じような雰囲気であると感じた。通訳の方の英語がすごく堪能だった。
- ・ 議長席に座れたことは特別な体験であった。
- ・ 議員の出席を取るボードがとても機能的だなとおもった。
- ・ 自分の国のお土産を渡せたことはとても光栄なことだった。
- ・ こんな経験は二度とないだろう。最高だった。

- Peer Learning Activities: The City of Water - Hyotanjima Cruise (Day 5)

- ・ コースが短すぎる！それぐらいとてもエキサイティングだった。
- ・ リラックスできた。
- ・ 天気に恵まれて、徳島市の町の景観を一望できた。
- ・ 橋が低いので、船に当たるのではと思って、とても怖かった。
- ・ クルーズをしながら夕日を見たかった。

- Tokushima Local Culture Experience 2: Mt. Bizan, Indigo Dyeing, Shopping Mall, Water whirlpools Observation (Day 5)

- ・ 藍染めは自分の好きなデザインを選んで染めることができるので、すごく楽しかった。
- ・ 手作りの製品がすごく好きなので、藍染め経験ができてよかった。
- ・ 天候が悪くて渦が見られなくて、残念だった。
- ・ 徳島は観光するのにとてもいい場所である。
- ・ ゆめタウンが2時間は少し短すぎる。
- ・ 眉山からの景色は徳島を一望できて最高だった。

4) What do you think you learned the most through interactions with Tokushima people and students during this program?

- ・ 語学力向上（英語と日本語）
- ・ 日本人の親切さと暖かさに触れることができた。
- ・ プログラム外での日本人学生との交流。夕食を一緒に食べにいった。
- ・ 何でも助けてくれようとした。とても嬉しかった。

5) What do you think you learned the most through this summer school?

- ・ 礼儀正しさ
- ・ 感謝の心
- ・ 他人を思いやること
- ・ 文化面以外あまり多くを学ぶことができなかった。
- ・ 時間を守ること。
- ・ 日本にはたくさんの美しい伝統文化（音楽、ダンスなど）がある。

6) Please tell us what should be improved in this program.

- ・ イスラム教徒がお祈りできる場所を確保してほしい。
- ・ 朝食付きにしてほしい。
- ・ 悪天候用の代替りのプログラムが欲しかった。
- ・ お土産を買えるところに連れて行ってほしい。

7) Do you recommend your juniors to attend our summer school, if we hold it next year?
(Please circle)

Very much	-----	Average	-----	Not at all
5 (43 名)	4 (4 名)	3	2	1

8) Do you think you will apply for our exchange program or recommend your friends/juniors to do so?

Very much	-----	Average	-----	Not at all
5 (35 名)	4 (9 名)	3 (2 名)	2 (1 名)	1

9) Overall, what do you think about this summer program?

- ・ とてもよくプログラミングされていて、本当に一生忘れることのない思い出となった。
- ・ 徳島や日本が大好きになった。次は徳島大学の学生として帰ってきたい。
- ・ 後輩達にもこのサマープログラムに参加することを是非勧めたいと思う。

PROGRAM QUESTIONNAIRE

**For International Summer School at Uni. of
Tokushima, 2014**

Please answer ALL items in this program questionnaire.

1) Please write your affiliation (with names of the department, institute, university and country)

2) Did this program have a positive impact for your study? (Please circle)

Very much	-----	Average	-----	Not at all
5	4	3	2	1

3) What did you learn through the following activities (What did you think about the following activities)?

- Lecture on Study Abroad in Japan/UT (Day 3)

- Tokushima Local Culture Experience 1: Awa Ningyo Jyoruri (Puppet Play) (Day 3)

- Networking Event: International Exchange Party at Awa Kanko Hotel (Day 3)

- Learn the University 1: Meet Japanese Students, Campus Tour and Cafeteria Experience with them (Day 4)

- Learn the University 2: Laboratory Tour (Day 4)

- Observation of the Presentations at the Advanced Japanese Class (Day 4)

- Tokushima Business Culture at Otsuka Factory and Human Resources Center, Eat at the Employee Cafeteria (Day 5)

- Tokushima Art Culture at Otsuka Museum of Arts (Day 5)

- Japanese Culture Experience 1: Tea Ceremony with Japanese Students and Local People (Day 6)

- Japanese Culture Experience 2: Tea Ceremony: Japanese Musical Instruments (Day 6)

- Peer Learning Activities: Visit Prefectural Government Office and Assembly (Day 6)

- Peer Learning Activities: The City of Water – Syotanjima Cruise (Day 5)

- Tokushima Local Culture Experience 2: Mt. Bizan, Indigo Dyeing, Shopping Mall, Water whirlpools Observation (Day 5)

4) What do you think you learned the most through interactions with Tokushima people and students during this program?

5) What do you think you learned the most through this summer school?

6) Please tell us what should be improved in this program.

7) Do you recommend your juniors to attend our summer school, if we hold it next year? (Please circle)

Very much	-----	Average	-----	Not at all
5	4	3	2	1

8) Do you think you will apply for our exchange program or recommend your friends/juniors to do so?

Very much	-----	Average	-----	Not at all
5	4	3	2	1

9) Overall, what do you think about this summer program?

We hope you enjoyed this program and learned a lot at Tokushima.

Thank you for your cooperation.

2.4.7 成果報告

2014年8月1日（金）～8月10日（日）まで、国際センター主催の下、サマースクール「徳島であおう！」を開催した。このサマースクールは、国際センターとして三回目の取り組みであり、今年度は7ヵ国（中国、インドネシア、台湾、韓国、マレーシア、スウェーデン、アメリカ）からの留学生50名、日本人大学生・地域住民約40名、本学留学生約30名の合計120名が参加する、国際色豊かなプログラムとなった。

【本サマースクールの趣旨・特徴】

昨年度同様、今年度のサマープログラムでも（1）参加する学生が、将来本学で交換留学生や正規外国人留学生として学んでもらうことを第一義的な目的とし、その目的に向けて（2）徳島大学での学習・研究、ならびに徳島の文化について理解してもらう、また（3）本プログラムで日本人と他国からの参加学生がお互いに出会い・知り合うことで、今後の国際化に向けた自らへ振り返りをうながす、という方針で全体のプランニングを行った。工学部ならびに医歯薬系のサマープログラムが「大学院博士課程に入学する学生をリクルートする」ことを念頭に置いている一方で、本サマースクールは将来本学修士課程に入学する留学生（ならびに交換留学生として本学で短期間学ぶ学部学生）をターゲットとしており、まずは「本サマースクールに参加した学生が、4-5年後博士課程に入学する」こと、そして「徳島にまた来たいと思う」その気持ちを育むことを念頭にプログラムの企画を行った。

以下、本プログラムの内容に沿って、（1）研究室訪問に代表される徳島大学におけるアカデミックな活動に関する情報提供、（2）阿波踊りや茶道・邦楽体験などによる体験的文化学習、（3）日本人学生・地域住民との関わりを通じて、徳島・徳島大学への理解を深める交流を中心とした学習、（4）合同交流会を通じたネットワークの形成という4点を基に本サマープログラムについてまとめることとする。

（1）徳島大学におけるアカデミックな活動に関する情報提供

「徳島大学におけるアカデミックな活動に関する情報提供」に関しては、国際センター教員による「徳島大学紹介」、常三島・蔵本地区での「研究室訪問」や「徳島大学紹介」を中心に内容を企画・立案した。本プログラムに参加する学生の専門分野は多岐にわたるものであり、歯学・栄養学・日本語学・経済学など実に様々な分野について興味・感心を持っている学生が参加していたことから、今回は、工学部、総合科学部、歯学部、医学部栄養学科に協力を依頼した。

参加者にとっては、現在進行している最先端の研究を直接見聞することができただけでなく、各部署で進行しているユニークな研究や教育活動について知ることができた点でも大きな刺激となったと考える。参加者が将来本学で再度学ぶためには、「何を学ぶことができるのか」といった学術分

野に関する情報、「誰の下で学ぶことができるのか」といった指導教員に関する情報は非常に重要であり、今回の「徳島大学紹介」、「研究室訪問」ではこれらの情報を具体的に提供することができたと考える。

(2) 徳島・日本の学びの提供

今回のプログラムでは、地域・学生サポーターによる茶道や邦楽体験、藍染め、大塚製菓の工場見学、鳴門市での阿波踊りを見学に加え、阿波人形浄瑠璃に触れ・学ぶ機会も提供したことから、参加者には非常に好評だった。特に、今回は阿波人形浄瑠璃に関する体験学習を、共通教育「日本事情」を受講している留学生が中心となって計画・準備し、授業と連携する形で同体験学習を展開したこと、また、共通教育「日本語」のクラス見学を取り入れたことは、非常に高く評価できるであろう。

(3) 日本人学生、地域住民、そして大学の国際化

昨年同様、今年度も国際センターに登録している学生サポーターに呼び掛け、参加者とともに学ぶピア・ラーニングを行った。今回は参加者を小グループに分けそれぞれに日本人学生を配置し、キャンパスツアー、ひょうたん島クルーズ、徳島県庁・県議会見学、副知事と議長との面談といった活動とともにいった。大学内外での活動を一緒に行うことで、同じ年齢の学生たちが意見交換を行い、参加者は日本人を、日本人学生は異なる言語や文化を背景に持つ参加者を身近に知る機会となり、参加者・日本人学生双方に対する国際理解教育が行えたと考える。

徳島大学に在学している外国人留学生との交流を行う時間を設けることで、参加者がより徳島に親しみを感じ、将来の徳島大学への留学を現実のものともみることができたのではないかとと思われる。

茶道体験などいくつかの活動にはJSSをはじめ、地域住民にも参加してもらい、参加者がより多彩な日本人との交流を行う機会を設けることができた。また、異文化・多言語の大勢の外国人学生に接することで、地域住民の外国人に対する理解が進んだと考えられる。

(4) 合同交流会を通したネットワークの形成

交流会に関しては、昨年度に引き続き他部局のサマープログラムとの合同交流会を開催したが、今年度は阿波観光ホテルにて開催した。他のサマープログラムの参加者や日本人学生、地域住民、大学教員・職員と交流し、上板風神太鼓による和太鼓のパフォーマンスを体験する機会にもなったことから、参加者にとっては非常に良い交流の機会になったものとする。

国際センターサマースクール T シャツ

2012年、第一回国際センターサマースクール「徳島であおう！」の開催に際し、参加者や日本人学生サポーター、教職員の一体感を高め、互いに協力して国際交流を推進することを目的に青のTシャツを作製しました。キャッチフレーズ「徳島であおう」は①徳大生も含めた徳島の人にあう ②参加した各国の仲間にあう ③自分を見つめ直して新しい自分にあう の意味が込められています。このTシャツのバックの文字は国際センターの地域サポーターでもある書道家の作で、以後、毎年国際センターサマースクールで使用されています。参加者の良き思い出となると同時に、帰国後にもこのTシャツを手にとって徳島大学への関心を深めてくれることが期待されます。



バックの文字「徳島であおう」は書道家の吉野美苑（吉野美保）氏（「美苑書の会」主催者）による作

3 総括

徳島大学においては、本年度は、昨年度、一昨年度と同様に総合科学部サマースクール、ヘルスバイオサイエンス研究部統合大学院サマープログラム、先端技術科学教育部サマースクールおよび国際センターサマースクールの4コースのサマープログラムを実施した。本学は、4コースのサマープログラムを実施するようになってから3年目になるが、各コースのプログラム実施時期は全学の委員会である「サマープログラム等実施委員会」において検討し、昨年度と同様、全プログラムを8月初旬に合わせて実施した。その結果、4コースの出席者全員が参加できる合同交流会を8月4日に実施できた。また、2、3のコースで、阿波人形浄瑠璃体験、徳島地域見学旅行および企業訪問を合同で実施できた。

4コースのプログラムを実施したことにより、海外の協定校等から合計152人の学生が本学を訪れた。本学からも約50人の日本人学生がサマープログラムに参加し、訪問学生と交流を行った。また、本年度はヘルスバイオサイエンス研究部統合大学院サマープログラムにおいて、(独)科学技術振興機構(JST)が提供する事業、「さくらサイエンスプラン」の支援を受けて中国貴陽医学院から教職員2名と学生7名の参加があった。

総合科学部サマースクールと国際センターサマースクールは学部学生を対象とし、ヘルスバイオサイエンス研究部統合大学院サマープログラムと先端技術科学教育部サマースクールは学部高学年または大学院生を対象としたプログラムを提供している。それぞれのプログラムの中で実施される英語による授業や研究室訪問、キャンパスツアー、合同交流会等により海外からの学生は徳島大学を知ると共に茶道や和楽器、人形浄瑠璃、藍染めなどの日本文化を体験することができた。また、県内企業訪問や文化体験等を通じて日本の伝統文化や徳島を紹介することができた。海外から参加した学生は、徳島や日本に対する理解を深め、徳島や日本を身近に感じることもできたものと思われる。一方、本学から参加した日本人学生にとっては海外に関心を持つ良い機会となった。

海外から参加した学生の中には、本学への留学を希望している学生もいた。これまでもサマープログラムへの参加をきっかけに本学への留学を決定した学生もあり、優秀な留学生の確保につながっている。また、サマープログラムの学生募集を通じ、徳島大学を海外にアピールすると共に、実際に協定校の教員や学生を徳島大学に招聘し、交流を深めることにより学術交流協定校との関係も強化され、本学の教員、職員、学生の国際化を図ることができた。

海外からの参加者からはこれら4つのサマープログラムについて、高い評価を得ており、次年度も引き続き実施する予定である。

4 今後の課題とまとめ

【サマースクール全体としての今後の課題】

- ① 大学全体の取組みとして、統一性のあるコース設計
- ② 交流行事等のイベントの合同実施
- ③ 期間や規模等、サマープログラムの定義の明確化
- ④ 担当教員、事務職員の業務量の軽減
- ⑤ 関係部局からの経費、業務の支援
- ⑥ 参加者受入れ国の拡大
- ⑦ 参加者が滞在する快適な宿舎の確保
- ⑧ 天候不順の際の対応、代替案の準備

【総合科学部サマースクールプログラム】

（１）実施体制

当初は少人数で実施してきたサマースクールであるが、今年度は８名にまで協力教員を増やすことができ、授業、実習、生活全般などの面で関わるのが可能となった。人数的にはこれで問題がないのではあるが、平成 28 年度に改組を予定しており、現在の協力教員が 3 学部と教養教育院に分散することが予想される。教員の分散に対応して平成 28 年度以降の実施体制を見直す必要がある。

（２）協定・MOU に関して

MOU の有効期限は 5 年となっているものの、学生の参加・受講体制を確立するためにも早急に交流協定を結ぶ必要がある。加えて、平成 28 年度においては、従来の協定・MOU では対応できないことが予想される。平成 28 年度の実施に向けて、平成 27 年度には協定もしくは MOU を準備する必要がある。

（３）初級の日本語授業について

今回、日本語の授業を新たに設けた。留学生の日本語のレベルは多様であり、単一の授業ではカバーできないものとなった。個々のコースごとに準備するだけでなく、徳島大学サマープログラム全体で提供される授業もあって良いのではないだろうか。

（４）日本人学生について

授業やエクスカースョンに参加した日本人学生の満足度は非常に高い。一方で、日本人学生の参加がそれほど多くない。共通教育の受講生は 1 年生が多く、集中講義の開催時期と、試験期間が重なることが敬遠のひとつの要因となっているようである。より多くの日本人学生の参加が今後の課題である。

【ヘルスバイオサイエンス研究部統合大学院サマープログラム】

プログラム終了後の帰国時に台風による公共交通機関の混乱による帰国日時の変更を余儀なくされた留学生があった。徳島地域の特殊性を考慮した移動手段の確保を今後の課題とした。

今後のプログラムの継続・発展のため、本プログラムの実施並びに成果検証は、プログラム等実施委員会が国際交流委員会と連携して行う。本学大学院生と留学生による授業評価、担当教員による自己評価を総合して成果を検証、評価する。その結果を大学院教育の継続した国際化計画につなげるとともに、本プログラムの継続、発展のために活用する。

また、本学のFD委員会と連携して、大学院教育に関する教育内容・方法について組織的な研究・研修ができるFD活動を継続して実施し、担当教員の教育・研究能力・語学力を向上させる。

さらに、外国人教員や学内外の学識経験者等による点検・評価を行なって、自立的な改善を図る予定である。

次年度以降の実施に関しては、平成20年度採択の「大学教育の国際化加速プログラム」から7年間一貫してサマープログラムとして毎年実施しており、次年度以降も教育内容の質の向上を図って、実施する計画である。

とくに、優秀な留学生の受入れのための選考の仕組みを整える。具体的には、学術交流協定校における推薦に際しての学業基準の標準化を協議し、整備する。

また、本プログラムを新規正規入学者リクルートに資するべく内容の充実を図る。とくに本プログラム参加留学生とのインタビューを積極的に実施して、留学生のニーズと留学志望動向を把握する。

さらに、講義コンテンツのe-learning教材の活用により、交流校における単位認定に際して、本プログラムの質の保証を担保するとともに、修学成果の測定に供する等の取組みを行い、より充実した魅力あるプログラムの開発に努める計画である。

【ソシオテクノサイエンスコース】

サマースクールの開催期間は夏休み中であり航空運賃が1年の中で最も高額な時期である。本サマースクールに参加する外国人学生は、中国や台湾をはじめ、マレーシア、タイ、インド等発展途上の国がほとんどである。先端技術科学教育部で申請した平成26年度JASSO留学生交流支援制度のうち、サマースクールに参加する学生が使用可能な短期受入れ（短期研修・研究型）プログラムは採択されたため、本年度は比較的余裕を持ってサマースクールを実施することができたが、今後、サマースクールを継続して実施するためには、事業費・活動費を安定して確保する必要がある。

また、本年度は基本プログラムが3週間で最終週が希望者のみ参加のサマープログラムとした。これまで経験のない約1ヵ月にわたるプログラムであったため、学生も実施委員も疲労の色は隠せ

なかったと思う。これだけ長期のプログラムを実施するためには、前期授業実施期間中よりサマースクールを開始しなければならず、前期試験期間とも重なるため約 90 名の大人数を収容できる講義室等の確保が大変であった。また、前期試験期間と重なることで、日本人学生の受講者数が例年に比較して少なくなったものと考えられる。

更に、本年度はサマースクール期間中の週末に台風による暴風雨に見舞われ、特に 3 週間の基本プログラムのみを受講して 8 月 9 日に帰国を予定していた外国人学生は航空券のキャンセル・変更を余儀なくされ、実施委員もその対応に追われた。特に徳島から関西方面へ移動する場合、鳴門海峡大橋、明石海峡大橋、瀬戸大橋を通過せねばならない。これらの橋が暴風雨のため長時間通行止めになっても関西空港から搭乗予定便がキャンセルにならない場合航空運賃の補償はされないため、天候等による交通規制が予想される場合は早期の対応が必要であることを痛感させられた。

最後に、サマースクール実施に対する実施教員の負担について述べる。大学の国際化に興味のない教員からのサマースクールへの協力はほぼ皆無に等しく、例年ほぼ決まった教員に対し、前期試験期間中の大切な時期に負荷がかかっているのが実情である。大学としても、サマースクールで講義を担当した教員に対してインセンティブを設けるなど、一部の教員の努力に甘えることなく積極的に支援していかないと、継続的な実施が困難になる恐れがある。また、国際センターのサマースクールとも連携を図り、専門的な体験は先端技術科学教育部・工学部が担当する代わりに、徳島大学で実施されるサマースクール申込窓口の統一や、日本文化体験あるいは企業見学については国際センターが担当するなど、サマースクール運営業務の効率化を図るべきだと考える。

【国際センターサマースクール】

1. 日程・期間の課題

昨年度の参加者の方から、「もう少し長い期間やってもらいたい」、「プログラム期間中にもう少し休憩時間などが欲しい」というという声が多かったことから、今年度は土日を含めて 10 日間でプログラムを計画した。

実施にあたり、台風の影響でプログラムを短縮する必要性が出てきたが、教員と事務が協力し、何とか無事対応できたと考える。しかしながら、このような緊急事態に対応するための対策について検討をしておく必要があったと考える。

開始時期に関しては、教職員ならびに日本人学生の都合を考えれば試験期間とお盆休みを挟んだこの時期が最善であると思われるが、日本人学生の確保などの問題点もある。例えば「総括授業期間をうまく活用しながらプログラムの予定を組む」などの対応策を考えた方が良いかもしれない。

2. 日本人学生・地域住民との交流の機会を増やす工夫が必要

全体を通して、参加者が日本人学生や地域住民と接する時間が少なかったように思う。サマースクールが学期末試験の期間と重なっていたこともあり、多くの日本人学生の参加を得ることは難しか

った。次回からは、例えば共通教育で提供している「国際交流の扉を拓く」などの授業で本サマープログラム向けの企画を立て、準備をすることにより、日本人学生が参加学生と触れ合う機会をより多く提供することができると思う。

また、今回は、阿波人形浄瑠璃体験や茶道・邦楽体験などを通して地域住民とも触れ合う機会を提供したが、そこでの準備・活動に追われてしまい、参加した海外からの学生が地域住民と親しくなるまでには至らなかったようである。地域住民や日本人学生との交流から得た実感や知識があれば、将来徳島大学に留学してみよう、という思いを持つに違いない。そこで、今後のプログラムではこれまで以上に日本人学生や地域住民、さらに徳島大学で学ぶ外国人留学生との交流や共に行動する活動を増やし、お互いを知り理解する場を作る工夫が必要であろう。

3. 他学部や事務との更なる連携が必要

本サマースクールでは、参加する留学生に将来本学で交換留学生や正規外国人留学生として学んでもらうことを第一義的な目的としたわけであるが、その点からすれば、各キャンパスで参加者の専門に応じて研究室訪問を実施した点は高く評価できると思われる。

5 担当者一覧

サマープログラム等実施委員会実施委員長

細井 和雄：副学長（国際担当）・国際センター長

サマープログラム等実施委員会実施委員

細井 和雄：副学長（国際担当）・国際センター長

荒木 秀夫：副理事（教育担当）・教授（大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部）

金 成海：教授（国際センター）

大石 寧子：教授（国際センター）

Gehrtz 三隅友子：教授（国際センター）

坂田 浩：准教授（国際センター）

橋本 智：准教授（国際センター）

齊藤 隆仁：准教授（大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部）

福井 清：教授（疾患酵素学研究センター）

東 雅之：教授（大学院ヘルスバイオサイエンス研究部・口腔科学教育部）

山崎 哲男：教授（大学院ヘルスバイオサイエンス研究部・薬科学教育部）

近藤 茂忠：准教授（大学院ヘルスバイオサイエンス研究部・栄養生命科学教育部）

生島 仁志：教授（大学院ヘルスバイオサイエンス研究部・保健科学教育部）

森賀 俊広：教授（大学院ソシオテクノサイエンス研究部）

総合科学部サマースクールプログラム

荒木 秀夫：副理事（教育担当）・教授（大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部）

大橋 眞：教授（大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部）

齊藤 隆仁：准教授（大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部）

佐藤 高則：准教授（大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部）

佐藤 征弥：准教授（大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部）

山城 考：准教授（大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部）

村上 敬一：准教授（大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部）

久田 旭彦：助教（大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部）

ヘルスバイオサイエンス研究部統合大学院サマープログラム

福井 清：教授（疾患酵素学研究センター）

赤池 雅史：教授（大学院ヘルスバイオサイエンス研究部・医科学教育部・医療教育開発センター長）

東 雅之：教授（大学院ヘルスバイオサイエンス研究部・口腔科学教育部）

山崎 哲男：教授（大学院ヘルスバイオサイエンス研究部・薬科学教育部）

近藤 茂忠：准教授（大学院ヘルスバイオサイエンス研究部・栄養生命科学教育部）

生島 仁志：教授（大学院ヘルスバイオサイエンス研究部・保健科学教育部）

国際センターサマースクール「徳島であおう！」

細井 和雄：副学長（国際担当）・国際センター長

金 成海：教授（国際センター）

大石 寧子：教授（国際センター）

Gehrtz 三隅友子：教授（国際センター）

坂田 浩：准教授（国際センター）

橋本 智：准教授（国際センター）

先端技術科学教育部サマースクール

森賀 俊広：教授（大学院ソシオテクノサイエンス研究部）

Koinkar, Pankaj M.：助教（大学院先端技術科学教育部国際連携教育開発センター）

于 海涛：助教（大学院先端技術科学教育部国際連携教育開発センター）

浅田 沢：大学院先端技術科学教育部国際連携教育開発センター事務補佐員

事務局

小林 裕美：国際課長

中谷 毅：国際課課長補佐

松尾麻里子：国際課国際交流係長

村澤 普惠：国際コーディネーター

の場かおり：国際課国際交流係事務補佐員

徳島大学サマープログラム 2014 報告書

編集発行：徳島大学サマープログラム等実施委員会

徳島市南常三島町 1 丁目 1 番地

088-656-7082

発行年月日：2015 年 3 月 31 日

